山梨県内分布調査報告書

（平成19年1月～12月）

2008. 3

山梨県教育委員会

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第257集
山梨県内分布調査報告書（平成19年1月～12月）
二〇〇八・三
山梨県教育委員会

山梨県内分布調査報告書

（平成 19 年 1 月～ 12 月）

2008. 3

山 梨 県 教 育 委 員 会

序

本書は、平成19年1月から同年12月まで文化庁の補助金を得て実施した、山梨県内分布調査の試掘調査と立会調査並びに踏査の結果をまとめたものです。

平成19年の調査件数は、試掘調査9件、立会調査17件、踏査1件の合計27件で、事業主体別では、国6件、県17件、独立行政法人鉄道建設・運輸施設設備支援機構（以下、「鉄道・運輸機構」と略す）2件、中日本高速道路（株）1件、日本郵政公社1件となります。

試掘調査9件の事業主体別では、国4件（道路建設事業2件、建物建設・解体事業2件）、県2件（道路建設事業1件、建物建設事業1件）、鉄道・運輸機構2件（リニア実験線建設事業）、中日本高速道路（株）1件（道路建設事業）であります。

国事業に伴う試掘調査としては、道路関係2件（都留バイパス建設、国道52号線改良）及び建物関係2件（防災ステーション建設、甲府地方裁判所所長宿舎解体）があります。都留市美通遺跡での都留バイパス建設事業では、縄文時代・古墳時代末から奈良時代の遺構や土器片が確認され、平成20年度に本調査を実施する予定です。増穂町青柳河岸跡での防災ステーション建設事業では、河岸の形成されていた時代の遺構や遺物は確認されませんでしたが、未取得地における河岸へ通ずる「お蔵道」などの存在する可能性が高いため、今後も継続して調査を実施していくことを確認しました。甲府城関連石切場での甲府地方裁判所所長宿舎解体事業においては、湧水により調査を中途で断念しましたが、敷地内に散在する矢穴等を有する石材加工痕並びに加工石材の確認調査により解体工事後の活用を検討する基礎データを得ることができました。

鉄道・運輸機構による山梨リニア実験線に伴う試掘調査では、境川工区で中丸遺跡、中丸東遺跡、竜安寺川西遺跡、八代・御坂工区で三光遺跡、稲山遺跡、大鼓畑遺跡、六ツ長遺跡、中丸遺跡で遺構や遺物が発見されたことから、今後協議・調整を図りながら平成20年度以降に本調査を実施していくことが確認されました。

中日本高速道路（株）による増穂町籐田池遺跡での中部横断自動車道建設事業では、今回調査を実施した範囲内において遺構や遺物は確認されませんでしたが、用地未取得地における今後の文化財保護の対応を図ることが確認されました。

立会調査17件の事業主体別では、国1件（道路建設事業）、県15件（道路建設事業2件、建物建設・解体事業5件、公共下水道等事業6件、河川改修事業1件、公園整備事業1件）、日本郵政公社1件（建物建設事業）であります。

平成19年の立会調査の傾向としては、県事業による県指定史跡「甲府城跡」周辺における道路改良をはじめとする環境整備事業や県営団地建替事業、企業局局長公舎解体事業など建物建設・解体事業への対応が10件に及んだことがあげられます。

踏査は、中部横断自動車道新直轄方式の導入エリア（市川三郷町地内から身延・南部町地内）を対象に実施し、試掘調査必要地点26箇所、発掘調査必要地点6箇所が確認され、この結果に基づき平成19年度以降、対応することで調整が図られました。

本報告書が多くの方々の文化財に対する理解と保護の一助となれば幸いであります。

末筆ながら、ご協力を賜った関係機関各位、並びに直接調査にあたられた方々に厚く御礼申し上げます。

2008年3月25日

山梨県埋蔵文化財センター
所長　末木　健

例　言

1　本調査報告書は、山梨県教育委員会が文化庁の補助金を受けて、平成１９年１月から同年１２月までに山梨県埋蔵文化財センターが実施した、県内の試掘調査並びに立会調査の結果をまとめた報告書である。

2　本報告書は、国・公社・県の道路建設、建物建設事業などの試掘調査と公共下水道事業、ケーブル敷設事業などの立会調査結果をまとめた報告書である。

3　本報告書における試掘・立会調査は、山梨県埋蔵文化財センターが実施し、各事業の調査担当者については、本文に明記した。なお、本文については、各事業結果報告に基づき保坂和博が編集した。

4　試掘・立会調査における調査状況写真及び記録図面などについては、各事業調査担当者が行い、その結果に基づき本報告書の執筆・編集などは、保坂が行った。

5　本報告書の出土品及び記録図面、記録写真などは、山梨県埋蔵文化財センターにおいて保管している。なお、試掘調査の結果、本発掘調査にいたる場合については、遺物、記録図面、写真などを調査資料として当該担当者に引き継ぎを行った。

6　試掘調査作業員並びに整理作業員は次のとおりである。（敬称略・順序不同）

塩山バイパス建設事業（雨宮久美子、長田美代子、沢登淳子、戸田ひろ、深沢茂子）、国道５２号線改良事業（岡部豊雄）、都留バイパス建設事業（元木公英）、法務省甲府地方裁判所所長宿舎解体事業（佐藤美喜男、佐田金子、福澤正樹）、山梨リニア実験線建設事業（小菅春江、佐藤武光、宮川勝男、村田勝利、岡 日出人、深沢和樹、宮久保あさの、千野富子、相澤淑美、宮下真樹子、中澤 保、石井弘文、金丸恵美、鮫田勝夫）、中部横断自動車道建設事業（河野逸広、村田勝利、マスード・オゼール、遠藤実雄、今津武男、望月 明）、整理作業員（北川直子、小菅春子、佐野眞雪）

7　本試掘・立会調査及び整理作業について、次の方々にご指導、ご協力をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。（順不同）

国土交通省甲府河川国道事務所・大月出張所・富士川上流出張所、法務省甲府地方裁判所、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、中日本高速道路株式会社、日本郵政公社、山梨県議会事務局、山梨県企業局総務課、山梨県企画部リニア交通課・情報政策課、山梨県総務部営繕課、山梨県土木部道路整備課・住宅課、山梨県中北建設事務所・峡東建設事務所・釜無川流域下水道事務所、酪農試験場、山梨県教育委員会学校施設課、山梨県立甲府工業高等学校、山梨県立峡南高等技術専門校、甲府市教育委員会、都留市教育委員会、韮崎市教育委員会、北杜市教育委員会、南アルプス市教育委員会、笛吹市教育委員会、山梨市教育委員会、甲州市教育委員会、増穂町教育委員会、市川三郷町教育委員会、身延町教育委員会、南部町教育委員会、渡辺律子

凡　例

1　各事業の位置図は、1/25,000 のスケールを基本としている。

2　図版縮尺については、図版内のスケールにより統一していない。

3　実測図及び写真は主要なものに限った。

本 文 目 次

序
例言
目次

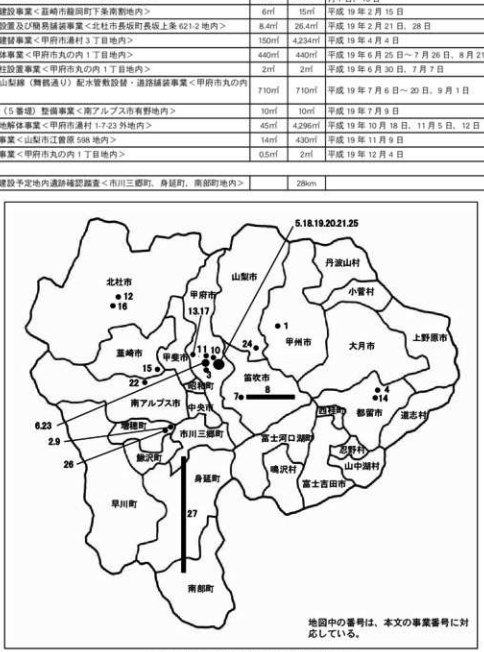
Ⅰ　試掘調査
県内分布調査発掘事業一覧・全体事業位置図 …… 1
1　国道 411 号塩山バイパス建設事業 …… 2
2　防災ステーション建設事業 …… 3
3　国道５２号線改良事業 …… 5
4　都留バイパス建設事業 …… 7
5　法務省甲府地方裁判所所長宿舎解体事業 …… 10
6　県立甲府工業高等学校室内トレーニングルーム増設事業 …… 12
7　山梨リニア実験線（境川工区）建設事業 …… 14
8　山梨リニア実験線（八代・御坂工区）建設事業 …… 21
9　中部横断自動車道建設事業 …… 29

Ⅱ　立会調査
10　企業局局長公舎解体撤去事業 …… 31
11　総合教育センター他情報ハイウェイ接続事業 …… 32
12　長坂郵便局（日野春郵便局移転）建設事業 …… 33
13　県営住宅湯村団地建替事業 …… 34
14　都留バイパス建設事業 …… 35
15　釜無川流域下水道建設事業 …… 36
16　酪農試験場内側溝設置及び簡易舗装事業 …… 37
17　県営住宅湯村団地建替事業 …… 38
18　舞鶴陸橋（主要地方道甲府・山梨線）北側歩道拡幅改良事業 …… 39
19　山梨県議員会館解体事業 …… 40
20　県庁構内西門の電柱設置事業 …… 41
21　主要地方道甲府・山梨線（舞鶴通り）配水管敷設替・道路舗装事業 …… 42
22　御勅使川福祉公園（５番堤）整備事業 …… 44
23　県営住宅千塚北団地解体事業 …… 45
24　兄川県単河川改良事業 …… 46
25　県庁構内水道修理事業 …… 47
26　峡南高等技術専門校下水道接続事業 …… 48

Ⅲ　踏査
27　中部横断自動車道建設事業 …… 49

県内遺跡分布調査発掘事業一覧

	事業名 （所在地）	調査面積（㎡）	調査対象面積（㎡）	調査期間
	試掘調査			
1	塩山バイパス建設事業＜甲州市塩山赤尾 671 外地内＞	162㎡	387㎡	平成 19 年 2 月 13 日～ 3 月 2 日
2	防災ステーション建設事業＜南巨摩郡増穂町青柳地内＞	866㎡	6,600㎡	平成 19 年 5 月 24 日、28 日、11 月 27 日、28 日
3	国道 5 2 号線改良事業＜甲府市上石田 2 丁目、飯田 5 丁目地内＞	42㎡	1,000㎡	平成 19 年 6 月 13 日、15 日
4	都留バイパス建設事業＜都留市井倉字美通 335 外地内＞	510㎡	10,040㎡	平成 19 年 7 月 18 日～ 27 日
5	法務省甲府地方裁判所長宿舎解体事業＜甲府市愛宕町 85-2 地内＞	2,285㎡	2,285㎡	平成 19 年 8 月 3 日～ 6 日
6	県立甲府工業高等学校室内トレーニングルーム増設事業＜甲府市塩部 1-2 地内＞	10㎡	121㎡	平成 19 年 8 月 6 日
7	山梨リニア実験線（境川工区）建設事業＜笛吹市境川町小山・前間田地内＞	2,600㎡	52,000㎡	平成 19 年 7 月 2 日～ 8 月 31 日
8	山梨リニア実験線（八代・御坂工区）建設事業＜笛吹市八代町・御坂町地内＞	2,200㎡	46,000㎡	平成 19 年 9 月 18 日～ 12 月 20 日
9	中部横断自動車道建設事業＜南巨摩郡増穂町青柳字整理地内＞	448㎡	6,600㎡	平成 19 年 11 月 19 日～ 21 日
	立会調査			
10	企業局長公舎解体撤去事業＜甲府市元紺屋町 110-1 地内＞	20㎡	691㎡	平成 19 年 1 月 15 日、23 日
11	総合教育センター他情報ハイウェイ接続事業＜甲府市塩部 3-2 付近＞	2㎡	5.2㎡	平成 19 年 1 月 18 日
12	長坂郵便局（日野春郵便局移転）建設事業＜北杜市長坂町上条字大林地内＞	24㎡	2,000㎡	平成 19 年 1 月 22 日、24 日、2 月 17 日
13	県営住宅湯村団地建替事業＜甲府市湯村 3 丁目地内＞	9㎡	2,000㎡	平成 19 年 1 月 25 日、26 日、2 月 15 日
14	都留バイパス建設事業＜都留市玉川字上ノ原 200-1 外地内＞	102.8㎡	102.8㎡	平成 19 年 1 月 30 日、31 日、2 月 7 日、11 月 26 日～ 28 日、12 月 7 日、10 日
15	釜無川流域下水道建設事業＜韮崎市龍岡町下条南割地内＞	6㎡	15㎡	平成 19 年 2 月 15 日
16	舘鼻試験場内側溝設置及び簡易舗装事業＜北杜市長坂町長坂上条 621-2 地内＞	8.4㎡	26.4㎡	平成 19 年 2 月 21 日、28 日
17	県営住宅湯村団地建替事業＜甲府市湯村 3 丁目地内＞	150㎡	4,234㎡	平成 19 年 4 月 4 日
19	山梨県議員会館解体事業＜甲府市丸の内 1 丁目地内＞	440㎡	440㎡	平成 19 年 6 月 25 日～ 7 月 26 日、8 月 21 日
20	県庁構内西門の電柱設置事業＜甲府市丸の内 1 丁目地内＞	2㎡	2㎡	平成 19 年 6 月 30 日、7 月 7 日
21	主要地方道甲府・山梨線（舞鶴通り）配水管敷設替・道路舗装事業＜甲府市丸の内 1 丁目地内＞	710㎡	710㎡	平成 19 年 7 月 6 日～ 20 日、9 月 1 日
22	御勅使川福祉公園（5 番堤）整備事業＜南アルプス市有野地内＞	10㎡	10㎡	平成 19 年 7 月 9 日
23	県営住宅千塚北団地解体事業＜甲府市湯村 1-7-23 外地内＞	45㎡	4,296㎡	平成 19 年 10 月 18 日、11 月 5 日、12 日
24	兄川県単河川改良事業＜山梨市江曽原 598 地内＞	14㎡	430㎡	平成 19 年 11 月 9 日
25	県庁構内水道修理事業＜甲府市丸の内 1 丁目地内＞	0.5㎡	2㎡	平成 19 年 12 月 4 日
	調査			
27	中部横断自動車道建設予定地内遺跡確認調査＜市川三郷町、身延町、南部町地内＞		28km	



平成19年県内分布調査全体事業位置図

1　国道 411 号塩山バイパス建設事業　≪甲州市塩山赤尾≫

所在地	甲州市塩山赤尾 671 外	調査期間	平成 19 年 2 月 13 日～3 月 2 日
担当者	村石眞澄・大木丈夫	調査面積	162㎡

調査経緯及び事業内容と結果

試掘範囲は、平成 18 年 7 月から 9 月に発掘調査を実施した西畑Ｂ遺跡の調査範囲と、用水路を隔て西側に隣接する。このために、先に実施した発掘調査前に行った県土木部峡東建設事務所と学術文化財課と埋蔵文化財センターの 3 者との協議で、試掘調査が必要であることを確認してあった。そこで、用地買収や家屋などの撤去など試掘の準備が整ったため、試掘調査を実施した。この試掘により、調査が完了し、発掘調査は不要となった。

試掘調査の出土品や図面の分析編集や報告書刊行などの整理作業は、隣接する西畑Ｂ遺跡北区・南区の整理作業と合わせて埋蔵文化財センターが実施し、経費は山梨県土木部が負担した。

調査地点の赤尾集落には、「赤尾の十八人名主」という言い伝えがあり、大きな屋敷が集中している。しかも中心的な家には、黒川金山の金山衆と推定される保坂次郎右衛門尉宛の天正二年 (1574) の武田家朱印状が伝わっており、中世から継続する古い起源をもつ集落と推定される。

調査方法は、第 1 ～ 4 の 4 本のトレンチを設定し、中世の遺構が存在する可能性を考慮して、表土から人力で掘り下げて、丹念に調査を進めた。遺構や遺物の測量は平板を使用した。

調査の結果は、調査範囲の北東に人頭大以上の巨礫の分布する範囲があり、これらの巨礫の間に堆積した黒褐色砂質土層の中から、縄文時代中期末の土器 26 個体が集中的に出土した。土器の出土位置を記録しながら、取り上げを行った。

縄文土器を包含する黒褐色砂質土層を掘り下げ、遺物を含まない粗砂混じりの大礫（拳大以上人頭大以下）～巨礫層に達し調査を終了した。この黒褐色砂質土層は、旧河道の中心に向かって傾斜をもっており、役割を終えた土器などを送ったいわゆる「土器捨て場」と考えられる。詳細については、下記の発掘調査報告書参照。

山梨県教育委員会　2008 『西畑Ｂ遺跡・北田中遺跡』山梨県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第 252 集

国道 411 号塩山バイパス建設事業位置図

2　防災ステーション建設事業　試掘《青柳河岸跡》

所在地	南巨摩郡増穂町青柳地内	調査期間	平成19年5月24日、28日 11月27日、28日
担当者	山本茂樹、猪股一弘	調査面積	866㎡

調査経緯及び事業内容と結果

国土交通省が計画している防災ステーション建設に伴い、平成19年4月24日に現地にて国土交通省甲府河川国道事務所および富士川上流出張所、施工業者、学術文化財課、埋蔵文化財センターを交えて協議がもたれた。平成19年度の事業対象面積が6,600㎡と広範囲にわたるため、用地の取得された箇所について調査が可能であれば順次行っていくことで確認された。

増穂町の防災ステーション建設に伴い、平成19年5月24日（木）、28日（月）の両日において第1回目の調査は、試掘溝を6本設定し約80㎡の試掘調査を実施した。また第2回目の調査は、試掘溝を11本設定し11月27，28日に行った。

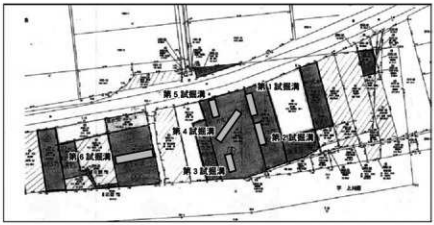
第1回目は、地表下240～260㎝でシルト層（灰色粘土層）の広がりが確認され、ほぼ北から南へ傾斜している様相を示した。第2試掘溝では、340㎝まで掘削を行ったところ、シルト層が互層を示していた。灰色粘土層が45㎝、その下には厚さ8㎝の暗褐色粘土層が堆積し、その下では14㎝の灰色粘土層、13㎝の暗褐色粘土層、そして24㎝の灰色粘土層であり、この付近は湿地帯が形成されていたものと思われる。各試掘溝の表土下140㎝前後には、茶褐色の砂質土が6㎝～20㎝の幅で堆積しており、洪水等による堆積土と思われる。堆積層については、各試掘溝では同一の堆積土を示しており、第4試掘溝ではシルト層に畦のような高まりが確認されたが、各試掘溝のシルト層の上層が全て粘性の強い締まりのある層が堆積していたこと、仮に水田が営まれたと考えると水田を放棄するような状況ではないこと、などから水田の畦ではないものと思われる。周辺で発掘調査が行われた「町屋口遺跡」では、度重なる洪水により水田面の上層には砂が堆積し、更に上層（現在の）では水田を営むために床土（粘土）が敷かれていた。今回の試掘調査では、このような砂層がシルト層の上面になく、表土から140㎝前後に砂層が確認されただけである。また、堆積した土の質も異なっており、堤防構築の際、何らかの手が加わっている可能性もある。周辺での試掘調査においてもこの粘土層を基本として、この層の上層で遺構確認を行っていること、そして、この地域では青色の粘土層が広く堆積していることが明らかとなっており、この層及び青色の粘土層以下には遺構が存在していないことが明らかであったため、粘土層の上層で遺構の確認を行った。

第2回目は試掘溝を計11本設定し約786㎡を調査した。第2図のとおり、青柳河岸跡へ通ずる「お蔵道」の確認と青柳河岸跡の範囲確認及び河岸に関連する遺構確認が目的である。用地取得箇所では地表下約250～290㎝で青色粘土層の広がりが確認され、堆積土層については、各試掘溝では同一の堆積を示している。掘削面の壁の精査を行い遺構確認を実施したが、各試掘溝では遺構は確認されなかった。また、遺物については、関連する遺物の存在はなく明治時代よりも新しい陶磁器類が数点見つかったに過ぎない。これらの陶磁器類は小破片であり、河川などの氾濫により流れてきたものと考えられる。

「お蔵道」については、現道の脇を掘削したが道は確認されなかったことから、この道は現道の下に存在しているものと考えられる。しかし、南北方向の道については、隣接する河川の西側に水田が広がっているものの、この河川に沿って畑が延びていることからこの下に道の存在が想定される。また、東西方向の「お蔵道」に関しては、中部横断道路建設に伴う試掘調査を実施したが、現道の下に道が存在していることがほぼ明らかなため、本地点においても現道の下に存在している可能性は高い。

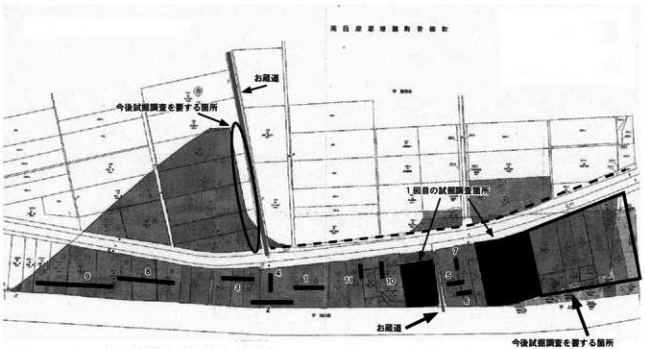
今回の試掘調査では、青柳河岸が形成されていた頃の遺構や遺物は確認されなかったが、未取得地においては河岸に関連する遺構や「お蔵道」が存在している可能性が高く、今後も試掘調査を実施していく必要がある。特に現道を改変する場合などについては、数カ所に現道を横断させる試掘調査を実施し、「お蔵道」の幅や確認面までの深さ及び高さ、構造などを確認する必要性がある。

第１図　防災ステーション建設事業位置図



第２図　第１回目の試掘箇所

調査状況(奥の高まりは堤防)



－－－－－は、「お蔵道」が想定される場所
――――――は、現道の下に「お蔵道」が想定される場所

第３図　第２回目の試掘箇所

3　国道 52 号線改良事業　試掘（荒川の渡し）

所在地	甲府市上石田二丁目・飯田五丁目	調査期間	平成 19 年 6 月 13・15 日
担当者	小野正文・坂本美夫	調査面積	42㎡

調査経緯及び事業内容と結果

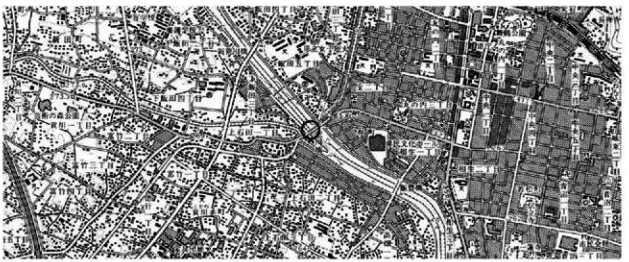
調査地点は、荒川とその西側に貢川とが平行して流れる場所で、荒川橋の東・西詰及び貢川橋の西詰の地点であり、国道 52 号線道路改良工事の実施に伴う仮設道路建設予定地である。試掘地は 5 地点のうち現状、面積などから、3 ヶ所にしぼった（試掘溝位置図参照）。これら対象地は、江戸時代から明治時代にかけて荒川の渡しとして知らされている（『甲府市史』）地点であり、かつての船の発着場跡、休憩場所跡や渡し船などの所在の有無を目的として、試掘調査を実施した。

第 1 号トレンチは、荒川橋の西詰であり貢川橋の東詰にもあたる地点（甲府市上石田二丁目 1 番 2 号）である。トレンチは地上の構造物などから「へ」の字状に設定したが、掘削 1 m ほどの位置で撤去できないコンクリート基礎に突き当たり、結果として坪掘り状となった。掘削の結果、アスファルト、砕石層を経て、以下に 3 層の褐色土層を確認したが、これらはいずれもコンクリート片、瓦などの廃棄物の混入された客土層であることが確認できた。このうちの最下層には鉛管の水道管片の混入がみられた。第 5 層の最下層の砂礫層は、河川堆積層で掘削最深部の 2.6m 以下にもおよぶもので、白色の砂に直径 5 ㎝ほどの礫を含むものであるが、その上面及び側面とにおいても施設の存在を示す杭の残存などはもちろん、他の遺構、遺物も全く確認できなかった。なお、試掘地の南側と道路を挟んだ北側の建物は、試掘地点より 2 m ほど低い場所にあり、荒川橋の建設などのさいの埋め立て地ということであった。

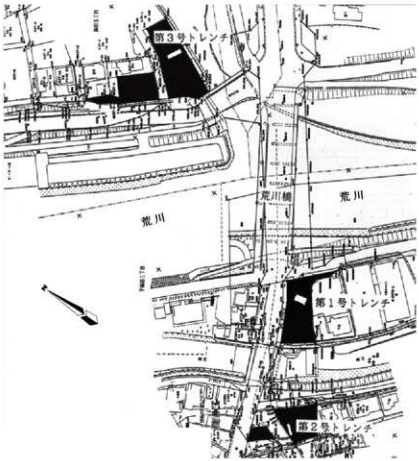
第 2 号トレンチは、貢川橋の西詰（甲府市上石田二丁目 2 番 10 号）に設定したが、表土より 1.2m ほどまでコンクリート片などを含む客土層で、以下が河川堆積層の砂層である。この砂層からの遺構・遺物の確認は無かった。

第 3 トレンチは、荒川橋東詰で合流する相川の右岸上（甲府市飯田五丁目 4 番 1 号）である。表土（約 40㎝）以下が砂層となり相川に向かって落ち込むのが確認できた。電柱の穴のほかは、遺構・遺物は確認できなかった。

よって荒川の渡しを含め遺構・遺物等が全くみられなかったことから、工事を行うも支障ないものと考える。



第 1 図　国道 52 号線改良事業位置図



第１地点土層堆積状況

第２地点土層堆積状況

第３地点土層堆積状況

第１号トレンチ

第２号トレンチ

第３号トレンチ

第２図　試掘溝位置・土層図

4　都留バイパス建設事業　試掘（美通遺跡）

所在地	都留市井倉字美通 355 番地外	調査期間	平成 19 年 7 月 18 日～7月 27 日
担当者	坂本美夫・酒井玄暁	調査面積	510㎡

調査経緯及び事業内容と結果

調査地点は、西流する朝日川と北流する菅野川とが合流する付近で、両河川に挟まれた南から北に向かって緩やかに傾斜する土地である。事業地の南側に隣接するように、現在の集落を北限とした美通遺跡がみられることから、事業に当たり遺跡の有無、範囲の確認をおこなった。試掘範囲は、事業地の杭№ 385 ～№ 408 ＋ 16 の間で、南側から北に向かってＡ区、Ｂ区とした（試掘溝設定図参照）。なお、Ａ区とＢ区（中央）との間の未試掘地については、平成 20 年度以降の試掘結果により、本調査の必要な範囲となるか否か決定する。

Ａ区（杭№ 385 ～№ 389 ＋ 10)(5 号トレンチ欠番）

第１～ 10 号トレンチのうち、4、6 ～ 8、10 号トレンチからは遺構、遺物は確認されなかった。

１号トレンチでは、深さ 90㎝ほどの第４層（褐色土）より縄文土器片を伴う土坑１基、時期不明の土坑３基を、９号トレンチでは、深さ 60㎝ほどの第３層（黒褐色土）より竪穴住居跡（古墳時代末から奈良時代）１軒、同時期の土坑１基、時期不明の土坑１基、土師器を、２・３号トレンチでは、時期不明の土坑３基を確認し、これら遺構・遺物の確認された杭№ 386 ～№ 389 ＋ 10 の区間（1,400㎡）を本調査が必要とした。

Ｂ区（中央〆杭№ 394 ～№ 403）

設定した 14 本のトレンチのうち、１～ 10、16 ～ 18 号の合計 13 本のトレンチからは、１号トレンチを除き多少の前後はあるがほぼ 1,1 ｍ下の褐色土層から縄文土器片などが、また、水田床土の下より須恵器、灰釉陶器が数点確認された。なお、第２・３層といった浅い土層から切り込まれた土坑がみられる。以下、主立ったトレンチ状況を取り上げると以下のようになる。

１号トレンチでは、西側部分において深さ 50㎝ほどの第３層から黄褐色ローム層が確認でき、上層からは縄文土器片が確認された。なお、１号トレンチ以北では 1,5 ｍ前後の深さで確認されることから、この間に大きな地形の変化が想定できる。一方、トレンチの東側は徐々に落ち込み、深さ 1,6 ｍほどで砂利層となる溝ないし谷が考えられる。

５号トレンチでは、1,1 ｍほどの第５層（褐色土層）から縄文土器片（前期～中期）、黒曜石片などが確認され、東端付近にやや密度の濃い状況がみられた。また、西端寄りの深さ 1,8 ｍほどの最下層黄褐色土層（ローム）の上面において、焼土、炭化物が確認された。

10 号トレンチでは、第４層（褐色土）からも小量の縄文土器片がみられるが、その主体は深さ 1,3 ｍほどの第５層（黒褐色土）にあり、摩耗のみられない大形の縄文土器片（前期）が確認できた。しかし、明確な遺構は確

第１図　都留バイパス建設事業位置図

第２図　試掘溝設定図

B-15T　敷石住居跡・焼土

B-9T

A-10T　竪穴住居跡検出状況

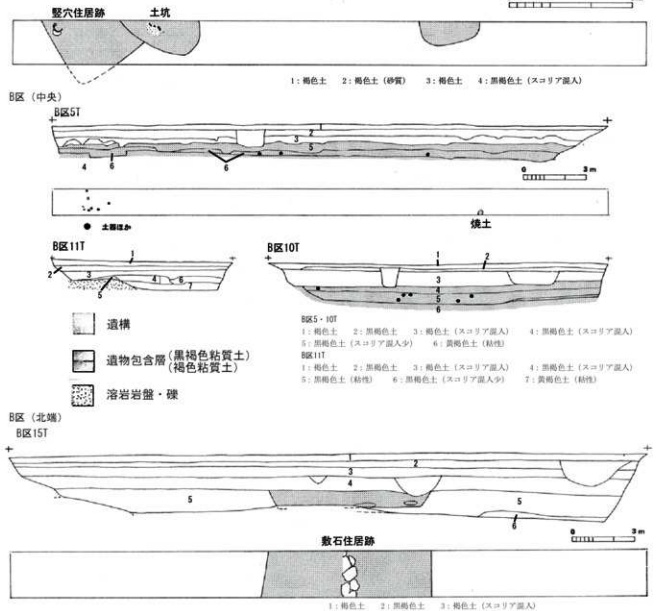
認できなかった。これら遺構・遺物の確認された杭№386～№389＋10の区間(2,700㎡)を本調査が必要とした。

B区(北端X杭№406＋5～№408＋16)

設定した4本のトレンチのうち、遺構・遺物の確認されたのは15号トレンチのみで、他のトレンチでは確認できなかった。

15号トレンチでは、深さ90㎝ほどの第5層(褐色土)より縄文土器片(中期)、焼土、炭化物を伴った敷石住居跡1軒を確認した。12～14号トレンチでは、浅い所で表土下10㎝ほどから溶岩(猿橋溶岩)の岩盤となり、岩盤の見られないところでは、溶岩礫が堆積し、遺構、遺物は確認できなかった。

本地区は、竪穴住居跡とその環境である溶岩との関わりを確認する必要があるため、杭№406＋10～№408＋16の区間(800㎡)を本調査が必要とした。



第3図　土層図

5　法務省甲府地方裁判所所長宿舎解体事業　試掘《甲府城関連石切場》

所在地	甲府市愛宕町 85-2	調査期間	平成 19 年 8 月 3 日～ 6 日
担当者	野代幸和　上原健弥	調査面積	2,285㎡

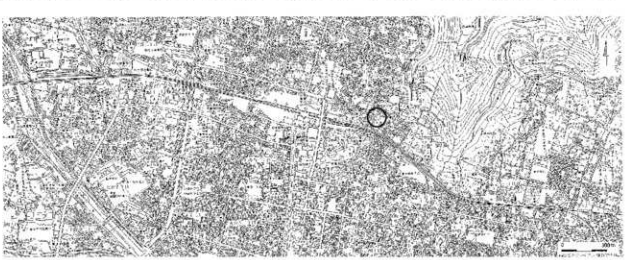
調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、甲府地方裁判所の旧所長宿舎解体工事に伴い、法務省と県教委学術文化財課との協議結果に基づき、同課から試掘・確認調査の依頼を受け、当センターで実施した。協議内容については、既存建物の基礎撤去作業に伴い地盤の掘削を伴うことを確認した。当該地域は甲府城に関連した石切場の存在が想定されており、敷地内にはその痕跡がみとめられる石材が散在することや、それらの痕跡を肯定する内容を記した石碑等が存在していること、また石切場の痕跡を活かして庭園が造られているなど史跡・名勝地の候補としても評価を受けており、解体工事後に財務省に移管される中でどのような形で活用していくことが望ましいのか検討されている地点である。よって、本地点における基礎的データ把握のため試掘および確認調査で対応することとなった。

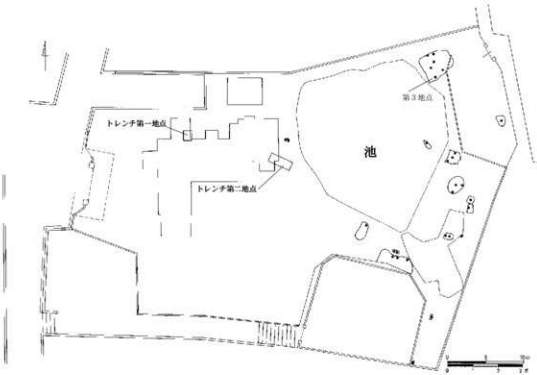
試掘調査は、建物基礎を撤去した部分に二箇所設定して行なった。第一地点（建物北西部）では約 1 m四方の範囲でトレンチを設定、約 80㎝の深度まで掘削して調査を行なった。現地表下約 40㎝の基礎直下では、地固めに使用されたと考えられる多量の安山岩片が認められたが、この安山岩の礫群を除去すると水が湧き出す状況が確認されたため、これ以上の調査は不可能と判断し中止した。第二地点（建物東部）では約 3 × 1 mの範囲でトレンチを設定、約 60㎝の深度まで掘削して調査を行なった。本地点においても安山岩礫群を除去すると粘土層の存在が認められたが、水が湧き出してくる状況が確認できたため調査を断念した。試掘調査による遺物の発見は認められなかった。

矢穴等を有する石材加工痕ならびに加工石材の確認調査を併せて実施した。これは石切場としての痕跡を明らかにするために実施したもので、加工痕のみられる石材の分布は第 2 図に示したように、11 石確認され、23 箇所の矢穴を確認した。矢穴の幅は概ね約二寸（5 ～ 6㎝）の規格であり江戸期（寛文～宝永年間）と考えられ、甲府城鍋門付近に認められるものと同類である。また最大のもので約 8㎝のものを確認した。その他にも大正期以降と考えられる削岩機等の痕跡も数箇所確認され、継続的に採石されていたことを窺わせる。石材の分布としては、敷地東側の池周辺で多く発見されており、池そのものが石材採取による窪地から発祥したものと考えられ、池の北側に露頭する巨大な岩石（第 3 図）には 6 箇所に及ぶ矢穴が認められる。

本調査内容は今後の保存活用のための基礎データとして有効なものと判断される。財務省に移管後には競売の可能性もあることから、文化財保護の立場から判断材料として貢献するものと思われる。住宅地であったにも係らず、国有地として保護されてきた経過もあり、良好な状態で石切場が保存されてきたことが判明したため、今後開発行為が行なわれる場合には池の水を抜き底地の状況調査や加工場の痕跡など詳細な発掘調査が必要である。

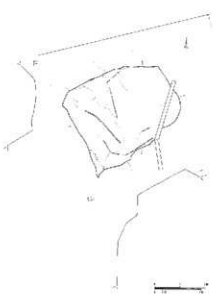


第 1 図　法務省甲府地方裁判所所長宿舎解体事業位置図



凡例：　・矢穴痕の認められる石材

第２図　トレンチならびに矢穴等石材分布図



第３図　矢穴集中地点実測図

トレンチ第一地点調査状況

トレンチ第二地点完掘状況

石材分布調査状況

6　県立甲府工業高等学校室内トレーニングルーム増設事業　試掘（塩部遺跡）

所在地	甲府市塩部一丁目2番	調査期間	平成19年8月6日
担当者	坂本美夫・酒井玄暁	調査面積	10㎡

調査経緯及び事業内容と結果

調査地点は、相川右岸に所在する塩部遺跡の東端に当たる。現在の校舎は平成6年まではグランドであり、隣接地を含め平成6・15年度に県・市教育委員会により発掘調査され、弥生時代末、古墳時代、平安時代の住居跡、低墳丘墓などの遺構、土師器、木製什器、人形、斎串などの遺物が発見されている。今回の調査地は、かって校舎の所在した場所の東門脇当たりであり、道路を挟んだ東側に相川が南流する。事業は既存のトレーニングルームの東側への増設に伴うなうもので、集落跡などの存在の有無の確認調査を行った。

1号トレンチ

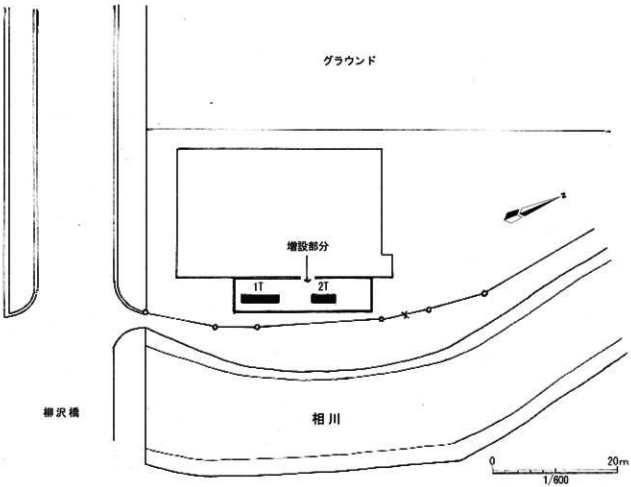
トレンチの南側では、アスファルト舗装より50cmほどの深さが室内トレーニングルーム建設の際の展圧された層からなる砕石層であった。これ以下は、厚さ10cm前後の砂質ないし粘性の土層で、細かく分けると9層に渡る土層が確認できた。これらはいずれも水平堆積をみせるもので、遺構の切り込みや遺物の依存は認められなかった。北側は一変して、砕石層下に旧校舎にかかわるとみられるコンクリート片、礫などを含み、これはさらに北側に続く。

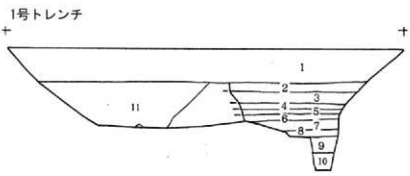
2号トレンチ

展圧の砂礫層は南から北に向かって薄くなり、1号トレンチに比べ半分ほどの厚さとなる。この下は、小礫を含む埋土の褐色土層で、中に校舎のものとみられるコンクリート基礎がしっかりと残存しているなど、もともとの土層の残存はみられず、また、遺構、遺物なども確認できなかった。

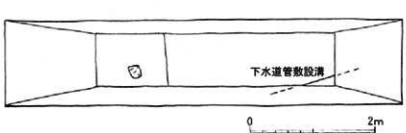
よって、遺構・遺物等が全くみられなかったことから、塩部遺跡の範囲から外れているものと考えられので、工事を行うも支障ないものと考える。

第1図　甲府工業高校室内トレーニングルーム増設事業位置図





1号トレンチ



土層
1：埋圧土（3層の互層）
2：灰褐色土
3：黒褐色土（粘性）
4：黄褐色土（粘性）
5：黒褐色土（粘性）
6：褐色土（砂質）
7：褐色土（砂質、やや粘性）
8：黄褐色土（砂質）
9：褐色土（粘性）
10：褐色土（砂質粗い）
11：埋土（褐色土や小礫、コンクリート片などを含む）

第２図　試掘溝設定図・土層図

7　山梨リニア実験線（境川工区）建設事業　試掘（笛吹市境川町地内）

所在地	笛吹市境川町小山・前間田地内	調査期間	平成 19 年 7 月 2 日～ 8 月 31 日
担当者	坂本美夫・田口明子・正木季洋	調査面積	約 2,600㎡

調査経緯及び事業内容と結果

事業地は笛吹市境川町地内のリニア実験線建設予定地および、変電所建設予定地である。調査は調査区をリニア実験線起点から金川 - 曽根丘陵広域農道までの起点地点と変電所地点に分けておこなった。（第 2 図参照）

＜起点地点＞

起点地点は西側の台地縁辺から、狐川扇状地を横断し、東側の変電所地点から続く斜面部までの全長約 600 m、幅約 20 mの範囲にある。調査は小山地内をＡ区、前間田地内をＢ区とし、さらに用地内を南北に走る道路・河川によりＡ区をA-1 ～ 3 区、Ｂ区をB-1 ～ 3 区に分け、計 28 本のトレンチを設定し、重機及び人力による掘削を行い、その後人力での精査による平面および断面観察よって遺構・遺物の有無を確認した。以下区毎に調査の概略を述べるが、試掘トレンチの設定については第３・５・６図のとおりである。

・Ａ区　西側の台地縁辺から狐川までの範囲であり、西側の台地縁辺部に中丸遺跡が、狐川の西側に中丸東遺跡が存在する。中丸遺跡の範囲内に設定したA-1 区 4 号トレンチおよびA-3 区 1 ～ 3 号トレンチでは遺構は確認されなかったが、縄文時代の土器片が出土し、特に台地斜面部に設定したA-1 区 4 号トレンチからは表土下の黒褐色粘質土中より多量の土器片が出土している。また、A-3 区 8 号トレンチでは地表下約 90㎝の深さの地点に堆積する黄褐色土層の上部に古墳時代の須恵器片がまとまって出土する黒褐色土の堆積が確認されており、黄褐色土層までの深さ・遺物の出土状況から、古墳時代の遺構覆土の可能性が高いと考えられる。

中丸東遺跡の範囲内に設定したA-2 区 1 ～ 3 号トレンチでは、盛り土層下の黒褐色土層中から縄文時代の土器片が出土したが遺構は確認されなかった。

また、中丸遺跡と中丸東遺跡に挟まれた狐川扇状地上に設定したA-1 区 1 ～ 3・6 ～ 8 トレンチでは、表土下に砂礫層の堆積が確認されており、磨滅した縄文時代および中世の土器小片が少数出土している。

・Ｂ区　狐川から東側尾根の急斜面部までの範囲にある。狐川の扇状地上に設定したB-2 区 1 ～ 4 号トレンチ、B-2 区 1 ～ 5 号トレンチではいずれも表土下に水成堆積層である砂礫の堆積が確認された。このうち、B-1 区 2 号トレンチ中より平安時代末～中世の土師器片 1 点、黒曜石 1 点が出土したが、遺構は確認されなかった。また、B-2 区 3 号トレンチでは表土下部に焼土が見られ、焼土周辺の表土層中から平安時代の土師器坏・甕片が出土している。

東側尾根の急斜面部に設定したB-3 区 1 ～ 3 号トレンチでは、地表下約 10 ～ 15㎝で安山岩を多量に含む黄褐色土層が確認され、遺構・遺物は確認されなかった。

調査の結果、中丸遺跡の範囲内であるA-1 区 4・5 号トレンチ付近、A-3 区 1 ～ 3・8 号トレンチ付近、中丸東遺跡の範囲内であるA-2 区について埋蔵文化財が確認されたため工事着手前に本調査を実施する必要がある旨を報告した。

＜変電所地点＞

変電所地点は北向きの緩やかな斜面上の約 40,000㎡の範囲であり、用地の多くは周知の遺跡である竜安寺川西遺跡の範囲内である。調査は用地内の道路によりＡ～Ｅ区に分けて用地内に計 109 本のトレンチを設定し、重機及び人力による掘削を行い、その後人力での精査による平面および断面観察よって遺構・遺物の有無を確認した。基本土層は①層：表土層、②層：暗褐色土層、③層：黄褐色土層（しまり弱い）、④層：黄褐色土層（粘性・ブロック質）、⑤層：明黄褐色土層（しまりあり）、⑥層：黄褐色土層（安山岩を多量に含む）の順に堆積する。以下区毎に調査の概略を述べるが、試掘トレンチの設定については第６図のとおりである。

・Ａ区　1 ～ 18 号までの 18 本のトレンチを設定し調査を行った。このうちＡ区南側の竜安寺川西遺跡範囲内に設定した 10 ～ 12 号トレンチから中世の遺物を伴う土坑 2 基、時期不明の土坑 1 基、柱穴 2 基が発見されている。いずれも表土下約 10 ～ 20㎝の地点、③層上面で確認されている。

・B区　西側部分を除き、竜安寺川西遺跡範囲内に入る。1～30号までの30本のトレンチを設定し、調査を行った結果、竜安寺川西遺跡範囲内の1～3・7～13・18・20・21・22～25・27号トレンチから遺構・遺物が確認されたほか19号トレンチにおいて遺物包含層を確認した。発見された遺構には竪穴住居跡2軒（縄文時代中期1軒、古墳時代1軒）、竪穴住居跡の可能性がある遺構2軒、溝状遺構4条、土坑29基（縄文時代2基）、柱穴32基があり、いずれも③層上面において確認されている。

・C区　西側・北側部分を除き、竜安寺川西遺跡範囲内に入る。1～36号までの36本のトレンチを設定し、調査を行った結果、竜安寺川西遺跡範囲内の18号トレンチで柱穴1基を確認した他、竜安寺川西遺跡北側範囲外の23号トレンチにおいて土坑2基、33号トレンチにおいて土坑3基（中世1基）を確認した。

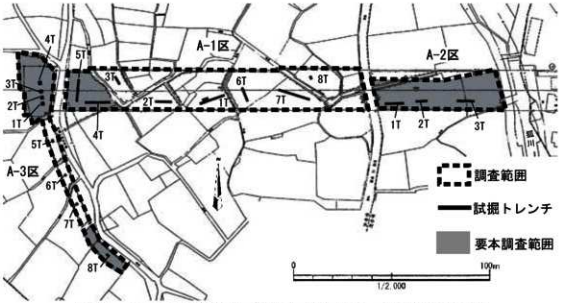
・D区　1～11号までの11本のトレンチを設定し、調査を行ったが、遺構・遺物は確認されていない。

・E区　14本のトレンチ（1～14号トレンチ）を設定し調査を行ったところ、1・7・13号トレンチの①層中より遺物が出土したが、遺構は確認されなかった。

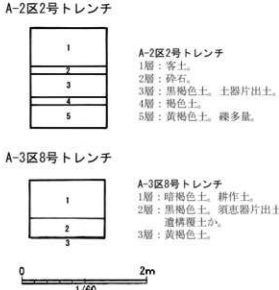
調査の結果、竜安寺川西遺跡範囲内の変電所地点A区南側及びB区の約10,000㎡と、竜安寺川西遺跡の範囲を追加修正したC区北側の約4,000㎡の2地点の本格的調査を実施する必要がある旨を報告した。

第1図　山梨リニア実験線（境川工区）建設事業位置図　S=1/25,000

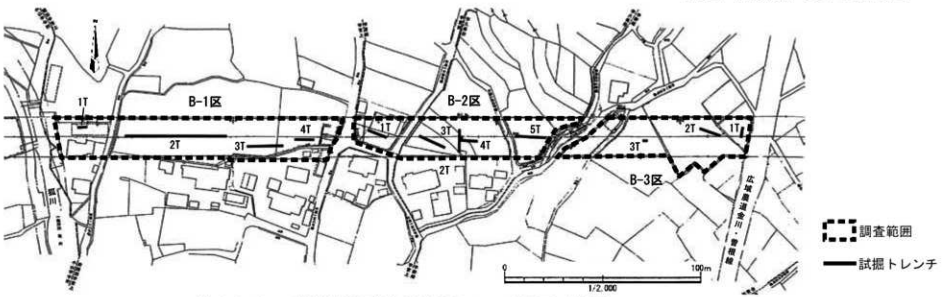
第2図　山梨リニア実験線（境川工区）建設事業位置図　S=1/6,000



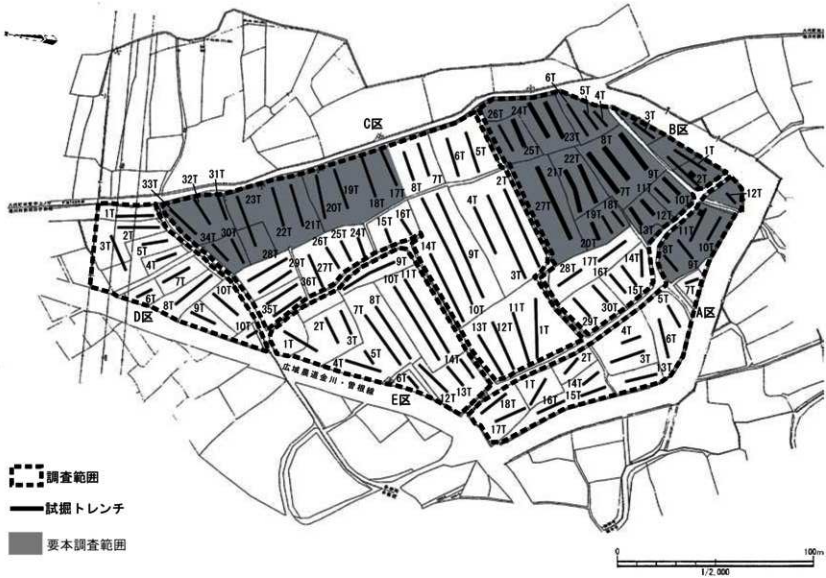
第３図　リニア実験線建設事業起点地点A区トレンチ配置図S=1/2,000



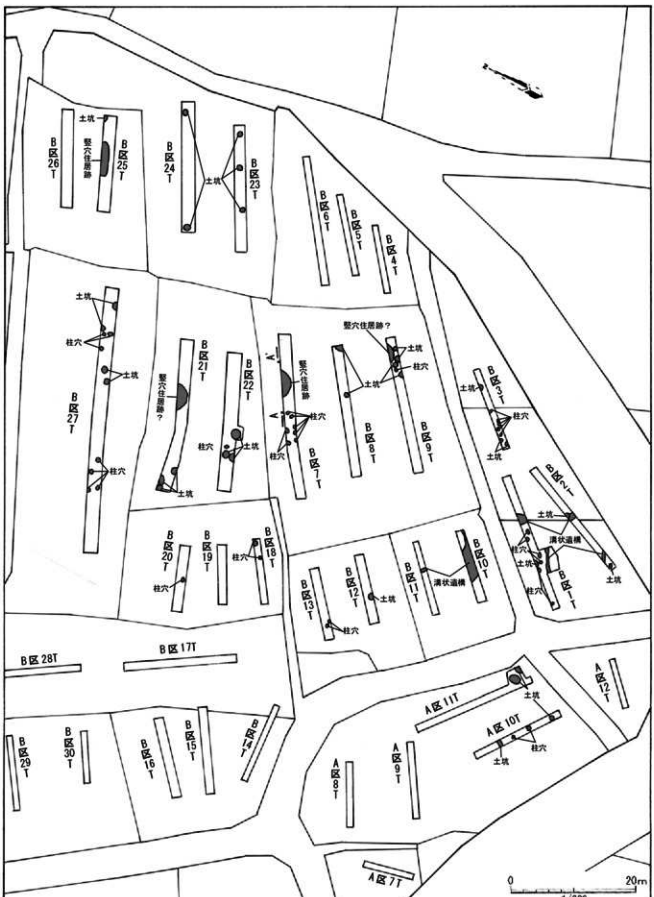
第４図　起点地点トレンチ土層柱状図



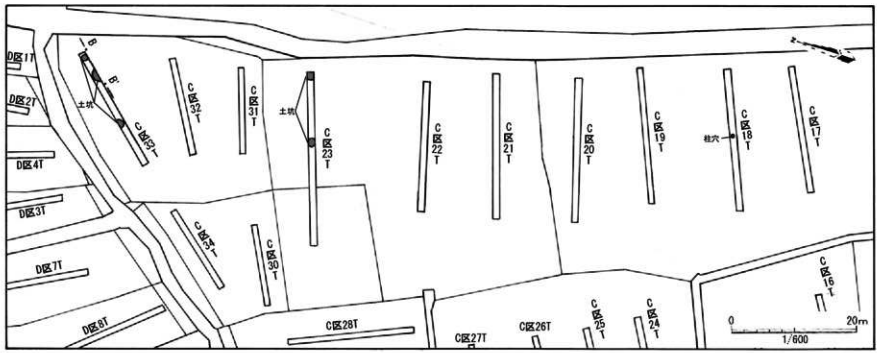
第５図　リニア実験線建設事業起点地点B区トレンチ配置図S=1/2,000



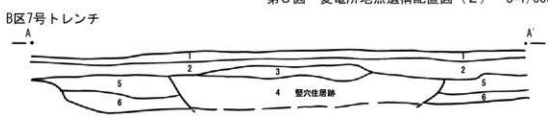
第６図リニア実験線建設事業変電所地点　トレンチ配置図S=1/2,000



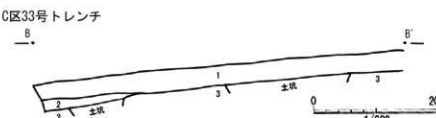
第７図　変電所地点遺構配置図（１）　S=1/600



第８図　変電所地点遺構配置図（２）　S=1/600



B区7号トレンチ
1層：暗褐色土。耕作土。基本土層①層
2層：暗褐色土。遺物包含層。基本土層②層
3層：暗黄褐色土。
4層：暗褐色土。竪穴住居跡覆土。
5層：黄褐色土。地山層。基本土層③層
6層：黒褐色土。硬化ブロック多量。



C区33号トレンチ
1層：暗褐色土。耕作土。基本土層①層
2層：黒褐色土。
3層：黄褐色土。ブロック質。基本土層④層
地山層。

第９図　変電所地点トレンチ土層図　S=1/60

起点地点A-1区4号トレンチ全景

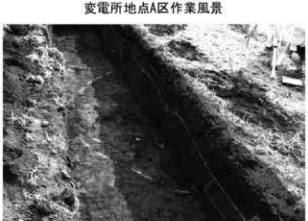
起点地点A-1区4号トレンチ土層堆積状況

起点地点A-2区2号トレンチ土層堆積状況

起点地点A-3区8号トレンチ全景

変電所地点A区作業風景

変電所地点B区3号トレンチ全景



変電所地点B区7号トレンチ縄文時代竪穴住居跡

変電所地点B区22号トレンチ縄文土器出土状況

8　山梨リニア実験線（八代、御坂工区）建設事業　試掘（笛吹市八代町・御坂町地内）

所在地	笛吹市八代町竹居1487外	調査期間	平成19年9月18日～12月20日
担当者	田口明子・正木季洋	調査面積	約2,200㎡

調査経緯及び事業内容と結果

試掘調査の対象となった区域は笛吹市八代町・御坂町地内のリニア実験線建設予定地である。本線部分の中の約6.5kmの範囲で、トンネル部分を除く区域が試掘対象地域であるが、一部に未買収、立木がある、また土砂崩落のために調査不能箇所がある。調査は西から東に向かって進められた。トレンチは、バックフォーまたは人力による掘削後に、人力精査を行い遺構・遺物の有無を確認した。掘削した順番に1～198まで番号を付した。予定地内には、周知の遺跡である南原遺跡・柚木遺跡・三光遺跡・中丸遺跡がある。また、古代からの若彦路・御坂路の存在が想定される地域であるため、それらの詳細を把握できるように努力した。

南原遺跡は、47～54・58・59トレンチ（以下Tと記す）にあたる。ほとんどが攪乱されており、遺物は49Tの攪乱層より黒曜石1と53Tの砂礫層から土器小片3・黒曜石1が発見されたが、遺構は発見されなかった。

柚木遺跡は、81～84Tにあたる。遺物は81Tの攪乱層から土器小片1、82Tから近世の擂り鉢片1、84Tから土器小片3が出土したが、遺構は認められなかった。

三光遺跡は、72～80・89～93Tにあたる。72～78・89～90・92Tからは、縄文土器片多数と打製石斧・黒曜石などが出土し、74Tでは、ピット3を確認した。1ピットは、現地表から約0.55mの深さで確認面があり、径約1m、深さ約0.5m、覆土中に縄文時代中期初頭の深鉢1個体が発見された。2ピットは、現地表から約0.3mで確認され、径約1.1m、深さ約0.8m、覆土中には径約0.3mの石が集中し、石棒1が認められた。また縄文時代中期の土器片と黒曜石が出土した。3ピットは、現地表から約0.3mで確認され、径約1.3m、深さ約0.6m、覆土中から縄文土器片2が出土した。1～3ピットは約半分がトレンチ外に伸びている。89Tでは、ピット1が確認された。1ピットは、現地表から約0.35mで確認され、径約1m、深さ約0.14mで、覆土中から縄文時代中期中葉の土器片が多数出土した。約半分はトレンチ外に伸びる。

中丸遺跡の範囲は、189～193Tにあたる。各トレンチからは、縄文時代前期～中期土器片や黒曜石片が出土した。190Tではピット5、191Tからはピット1が確認されたが、遺物の出土はないため時期不明である。

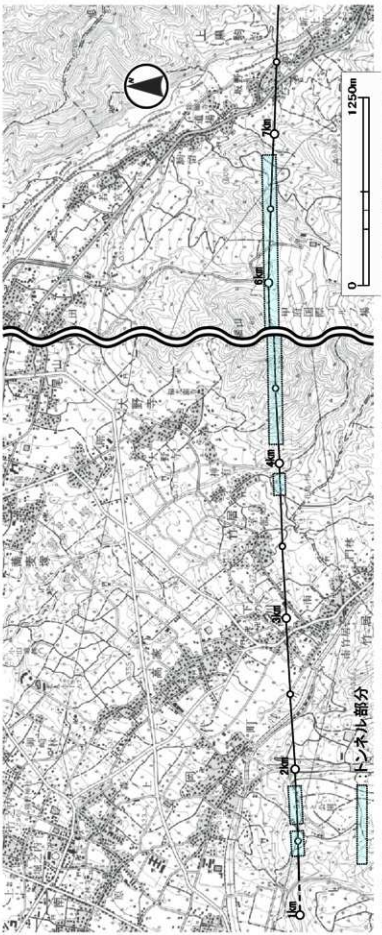
試掘調査の結果、新たに稲山遺跡、大鼓畑遺跡と六ツ長遺跡が発見された。

稲山遺跡は、13～19・23・25～27Tにあたる。13～17・25・26Tから、縄文時代前期を中心とした土器片・黒曜石片などが出土した。遺構は13～18・25・26Tから発見された。13Tからピット10・溝2、14Tからピット1・溝2で、1ピットから黒曜石片、2溝から縄文土器片が出土した。15Tからは、古墳時代の土師器片が出土した溝1、16Tから縄文時代前期の土器片を伴うピット1、17Tからピット2、18Tからピット2、25Tからピット1・溝1、26Tからピット1が発見された。これらの遺構は、遺物を伴わないため時期不明である。

大鼓畑遺跡は99Tにあたる。99Tからは遺構は発見されなかったものの、平安～近世の土器片22・釘1・陶器片1と多くの遺物が発見され、遺物包含層も厚さ約0.1mと0.3mの2層が確認された。北・西側より約1.7～3mの比高差がある台地の縁辺部にあたり、本遺跡はこれより南側に広がると考えられる。

六ツ長遺跡は166Tにあたる。166Tは、最初幅1m、長さ18mの範囲を精査したところ、溝2を確認した。1溝は、幅約2m、深さ約1.2mで、覆土中から土師器の台付甕片が出土した。溝はどちらも南北方向であったが、北側の164・165Tは、全体が攪乱されており、南側の167Tも全体が攪乱を受けていたために、溝の方向と残存状況を平面確認するために、南側にトレンチを拡張した。その結果、1溝は長さ約5.5mを確認した。2溝は最大幅約2.2m、深さ約0.8m、長さは約5.5mまで確認したが、遺物は出土していない。

若彦路は、111Tの東側に古道が推定されているが、未買収地であるため不明である。御坂路は、現在の県道上黒駒・石和線が推定されている。トレンチを県道際に設定しようとしたが、県道東側に簡易水道の管が敷設されているため、道際に設定できなかった。県道西側の176・177Tは、遺構・遺物ともに確認されず、180Tからは、土器細片が出土したが遺構は認められなかった。東側の181Tは、東側半分が攪乱を受け、県道に近い箇所は、



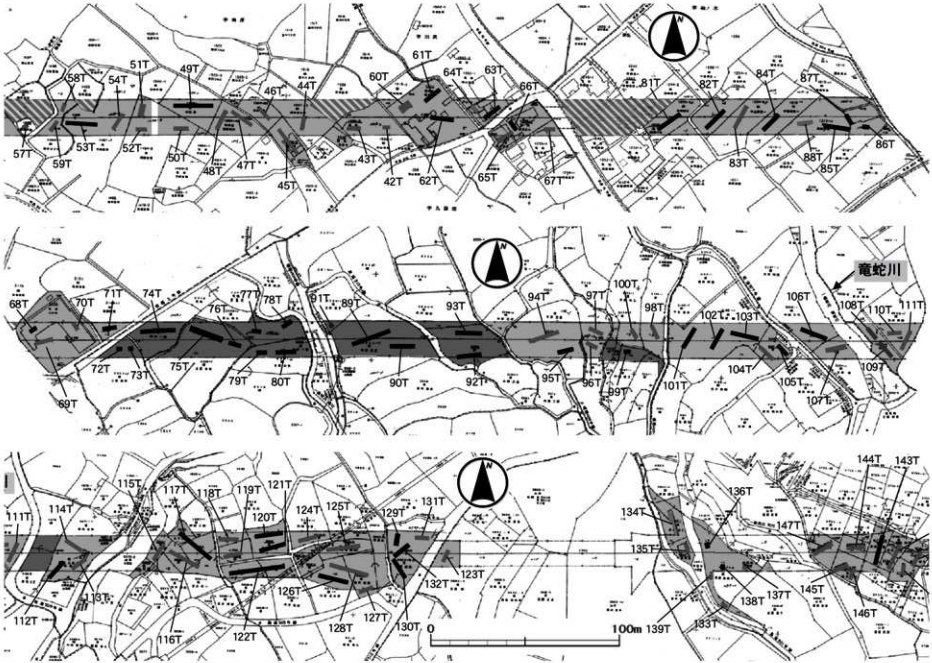
第１図　リニア実験線建設予定位置図（1/25,000）

現地表から約 0.45 ｍで、砂礫槽になる。遺構は認められなかった。

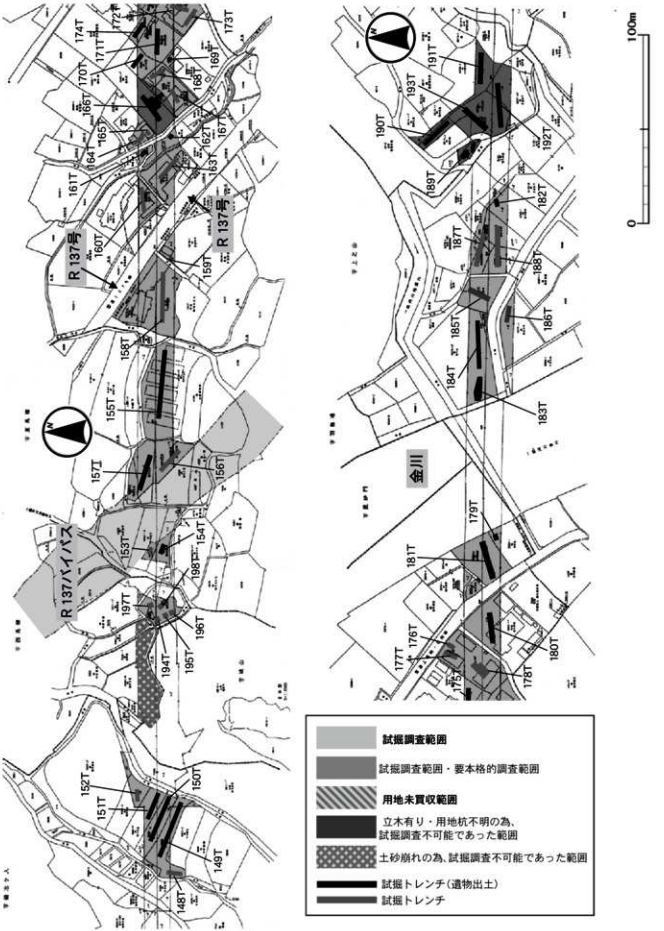
これら以外のトレンチからも遺物の出土がみられた。２Ｔからは、耕作土中より縄文土器片５が集中して出土した。５・６Ｔからは、縄文・平安土器片及び近世陶磁器片が数点出土したが、いずれも摩耗した小片である。21・22Ｔからは、土器片が各１出土した。24 Ｔは、平安～近世の土器・陶磁器片が各２出土した。28 Ｔからは土師器片３、31 Ｔは縄文土器片１・土師器片１、55 Ｔは平安～近世の土器・陶器片 10 が出土した。61・62 Ｔは平安～近世の土器片が各３、63・64 Ｔは、時期不明の羽口と鉄滓が多数発見されたが、遺構は発見されなかった。66・68 Ｔは攪乱中から縄文・平安土器片数点、71 Ｔは土器片１が出土した。85～87 Ｔは、当初、古墳の存在が考えられたが、遺構はなく、縄文・平安～近世の土器片などが出土した。88 Ｔからは縄文土器片２、95 Ｔからは、縄文土器片・黒曜石片各１が出土した。101 ～ 103・105 Ｔからは、縄文・平安土器片など数点、106・112・117 Ｔからは土器細片数点が出土した。120 ～ 122・126 Ｔからは土器片・黒曜石片、129・130・132・134・136・138 Ｔは、摩耗した縄文・平安土器片など、143 Ｔは土器片１、旧河道である 149 ～ 151 Ｔは土器片１～２、154 Ｔからは縄文土器片２、155 Ｔからは平安土師器 10、157 Ｔは土器細片２が出土した。161・162 Ｔからは縄文・平安～近代の土器・陶磁器片が攪乱より出土した。169 Ｔからは、平安時代の土師器片４、170 Ｔは攪乱から平安時代・近代の土器・陶磁器・ガラス瓶、171・174 Ｔは縄文・平安土器片、175 Ｔは近世の土器片、179 Ｔは埋土から近代以降の土器・陶磁器片が多数出土した。旧河道の 182 ～ 184 Ｔからは平安・近世の土器片が出土した。

以上の結果から、三光遺跡・稲山遺跡・大鼓畑遺跡・六ツ長遺跡・中丸遺跡の範囲で、本調査が必要と考えられる。各遺跡の本調査が必要な面積は、三光遺跡が約 2,900㎡、稲山遺跡が約 3,800㎡、大鼓畑遺跡が約 140㎡、六ッ長遺跡が約 260㎡、中丸遺跡が約 1,200㎡である。

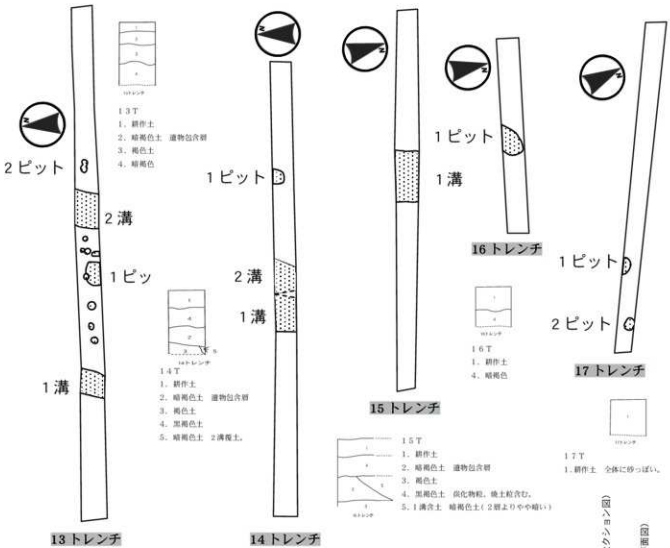
第２図　トレンチ配置図（1）（1/2,000）

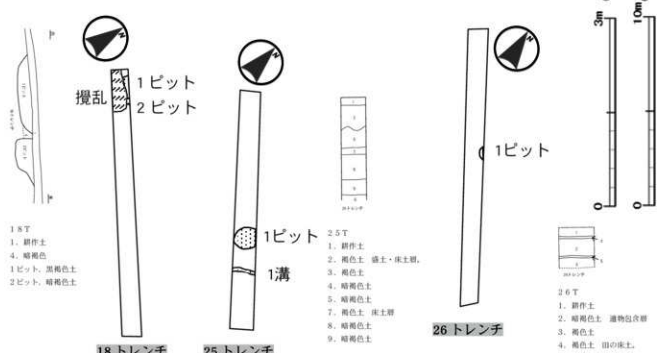


第３図　トレンチ配置図（2）（1/2,000）



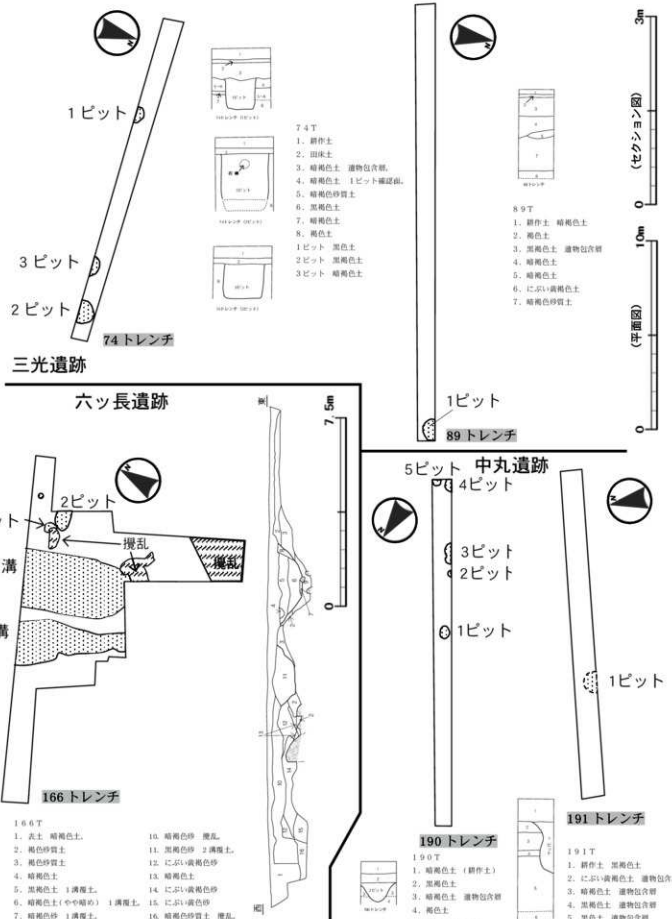
第４図　トレンチ配置図（3）（1/2,000）





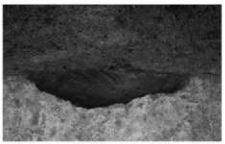
稲山遺跡

第５図　トレンチ平面図（1/200）・セクション図（1/60）



第６図　トレンチ平面図（1/200）・セクション図（1/60・1/150）

13 トレンチ（稲山遺跡）


26 トレンチ 1 ピット（稲山遺跡）

89 トレンチ 1 ピット（三光遺跡）

74 トレンチ 1 ピット（三光遺跡）

74 トレンチ 1 ピット（三光遺跡）

74 トレンチ 3 ピット（三光遺跡）

72 トレンチ（三光遺跡）

89 トレンチ 1 ピット（三光遺跡）

166 トレンチ 1（左）・2 溝（六ツ長遺跡）

74 トレンチ（三光遺跡）

190 トレンチ（中丸遺跡）

166 トレンチ 1 溝（六ツ長遺跡）

191 トレンチ 1 ピット（中丸遺跡）

9　中部横断自動車道建設事業　試掘《藤田池遺跡》

所在地	南巨摩郡増穂町青柳字整理地内	調査期間	平成 19 年 11 月 19 日～ 21 日
担当者	坂本美夫・山本茂樹・猪股一弘	調査面積	448㎡

調査経緯及び事業内容と結果

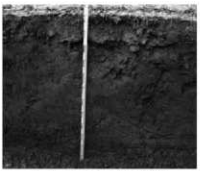
中日本高速道路（株）が計画している増穂町の中部横断自動車道建設に伴い、平成 19 年 10 月 31 日に埋蔵文化財センターにて中日本高速道路（株）、学術文化財課、埋蔵文化財センターを交えて協議がもたれた。内容については、中日本高速道路（株）では平成 19 年 12 月 16 日に当地にて起工式を予定しており、駐車場確保のため事前に試掘調査実施を依頼してきた。用地取得地および試掘溝の位置については、第 2，3 図のとおりで、今回の試掘対象面積は約 6,600㎡の水田地帯の一部で、試掘溝を計 7 本設定し約 448㎡を調査した。用地取得箇所では地表下約 170cm で青灰色粘土層の広がりが確認され、堆積土層については、各試掘溝では同一の堆積を示しているが、東へ行くに従ってこの粘土層は深くなっていくことが明らかとなった。

そして、畦が確認された試掘溝は、№ 1 ～ 4，№ 6 である。これらの畦は西から東へ続くものと思われるが、これらの畦は途中で切れる。試掘溝から発見された陶磁器片については、明治時代後半から大正時代のものと思われることから、畦がつくられた水田についても同時代のものと考えられる。「お蔵道」については、現道の脇を掘削したが道は確認されなかったが、現道の幅は水路を含めると 3.50 m前後で、路肩の確保も含めると約 4 m幅となり、お蔵道の幅が 1.80 mほどであることからすれば現道の下に存在しているものと考えられる。よって、試掘調査を実施した範囲内では遺構や遺物は認められなかった。

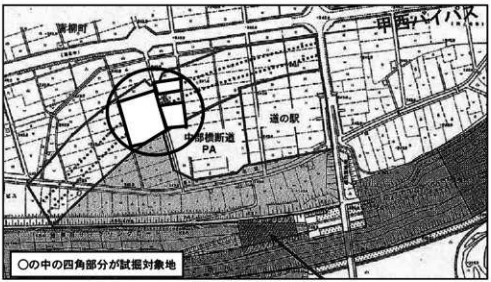
第 1 図　中部横断自動車道建設事業位置図

手前から奥へ延びている現道が「河岸お蔵道」

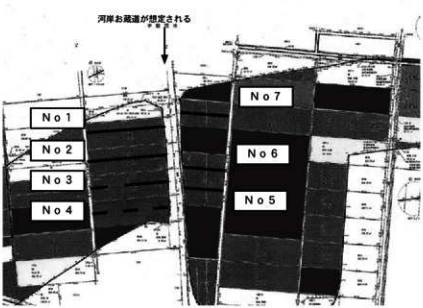
2 トレンチ



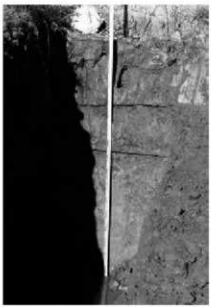
2 トレンチ　畦の状況



第２図　増穂町地内試掘調査地点



第３図　試掘溝の位置



２トレンチ　土層推積状況

１トレンチ畦

６トレンチ

６トレンチ

10　企業局局長公舎解体撤去事業　立会《武田城下町遺跡》

所在地	甲府市元紺屋町 110-1	調査期間	平成 19 年 1 月 15 日、23 日
担当者	山本茂樹	調査面積	約 20㎡

調査経緯及び事業内容と結果

立会調査は、甲府駅の北東に位置する元紺屋町地内である。本事業は、県企業局が所管する公舎で、既存の建物の解体撤去である。事業地は、遺跡台帳に記載されている周知の埋蔵文化財包蔵地の「武田城下町遺跡」内の外角部分であることから、企業局総務課と学術文化財課との協議により立会調査を実施することとなった。公舎は、愛宕山の西斜面に位置しており、西には藤川が北東から南西方向に蛇行しながら流れている。敷地は昭和40年代頃に二段に造成されていたため、第１回目の立会は１月15日に下段で実施し、第２回目は１月23日に上段で実施した。

下段の立会では、基礎の脇を掘削した時点で断面観察を行ったところ、約 40㎝までは盛土がされており、その下の層では薄茶褐色の砂質粘土で、小石混じりの層であった。この層は南北に水平堆積を示し、コンクリート基礎の下まで広がって存在していたことから地山であることが明らかとなった。下層には、茶褐色の粘質土が堆積していた。掘削土及び断面観察により遺物・遺構の確認を行った結果、遺物や遺構の存在は確認されなかった。上段では、現状地盤から約 95㎝までは造成工事などにより撹乱され、その下では茶褐色の粘質土で小礫を含んだ層が堆積していた。下段で確認された薄茶褐色の砂質粘土層は確認されなかったことから、造成時に削られたものと思われる。掘削土及び断面観察により遺物・遺構の確認を行ったが、それぞれ発見されなかった。

よって、敷地内に遺構が存在していたとしても造成時に掘削され、遺構や遺物は確認されなかったものと考えられる。

第１図　企業局局長公舎解体撤去事業位置図

掘削地点と土層堆積状況

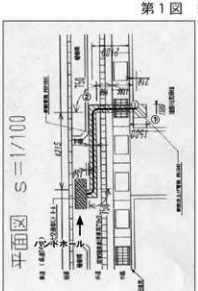
11　総合教育センター他情報ハイウェイ接続事業　立会《塩部遺跡》

所在地	甲府市塩部3－2付近　県道7号線歩道	調査期間	平成19年1月18日
担当者	山本茂樹	調査面積	2㎡

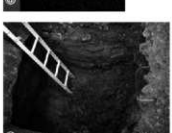
調査経緯及び事業内容と結果

情報政策課が発注する情報ハイウェイ接続事業は、塩部遺跡内にケーブルを埋設する工事であり、このことについて学術文化財課と協議が行われ、事業内容から立会調査で対応することとなり、学術文化財課から理蔵文化財センターに立会調査の依頼があった。施工箇所は、甲府工業高等学校の北西側で第1図に示したとおりである。掘削は（第2図）、最大深度①の地点で180㎝、②の地点では120㎝である。①では敷地内であることから約55㎝が盛土されていた。断面観察では、現地表から約110㎝までは埋め土、その下約30㎝までは黄茶褐色粘土層、その下は灰青緑色砂質粘土層で、掘削深度は180㎝までであった。平面確認及び断面観察や掘削土を調べた結果、遺構や遺物は確認されなかった。②では、南北に設置された側溝の下にケーブルを通し、歩道の下に敷設する工事で、既設のハンドホールへケーブルを引き込むための掘削である。歩道の下約110㎝までは工事のため砕石などで埋められており、その下にガス管が埋設されていた。事業内容は、現歩道の上面から60㎝にケーブルを敷設する関係上、すでに掘削が行われていたためこの時点で立会調査を終了した。結果としては、遺構・遺物の発見はなかった。

第1図　総合教育センター他情報ハイウェイ接続事業位置図



第2図　掘削地点



12　長坂郵便局（日野春郵便局移転）建設事業　立会《大林遺跡》

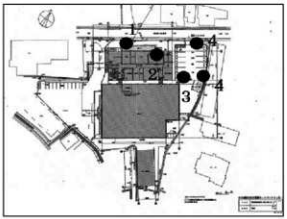
所在地	北杜市長坂町上条字大林地内	調査期間	平成19年1月22日、24日、2月17日
担当者	山本茂樹	調査面積	約24㎡

調査経緯及び事業内容と結果

この事業は、長坂町日野春に設置されていた郵便局が、同町大林地内に移転することに伴い、日本郵政公社と学術文化財課との協議結果に基づき、同課から立会調査の依頼を受け、北杜市教育委員会と当センターとで実施することとなった。協議内容については、建物建設にあたり大林遺跡内であることから地下に影響を及ぼさない方法で実施することとし、掘削が及ぶ用地の東南側の倉庫・車庫用建物部分と北西側の郵便局用建物については、ローム層上面から保護層30cmを確保して基礎を立ち上げ、掘削の際、立会調査による対応で合意した。

1月22日、現状の道路面から深さ約220cmに下水道管埋設を実施するため立会調査を実施した（第2図1）。その結果、現道では既に下水道管が埋設されていたため遺構・遺物は確認されなかった。また、敷地内への下水道管埋設については、建物による撹乱のため遺構・遺物は確認されなかった。1月24日、敷地内への配水管埋設工事（第2図2）が、幅約60cm、深さ約75cm前後の掘削を伴うことから立会調査を実施した。ここでは、円形を呈する小型の土坑が約半分確認された。穴の長軸は36cm、短軸は19cmで深さは20cmであった。確認された穴を完掘したが、遺物の出土はなかった。2月17日、敷地内のハンドホールの埋設（第2図3）と電柱設置（第2図4）による掘削の立会である。この地点では撹乱が激しく、旧建物のコンクリートなどが混入しており、遺構・遺物は確認されなかった。

第1図　長坂郵便局建設事業位置図



第2図　立会地点

写真左（下水道管埋設）、右（配水管埋設）

13　県営住宅湯村団地建替事業　立会《甲府市湯村地内》

所在地	甲府市湯村三丁目地内	調査期間	平成 19 年 1 月 25 日、26 日、2 月 15 日
担当者	山本茂樹	調査面積	9㎡

調査経緯及び事業内容と結果

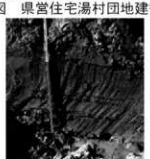
立会調査は、甲府駅の北西に位置する湯村地内である。本事業は、県営住宅の既存建物を解体撤去する工事である。団地の南東方向の湯村山には古墳が分布し、北東方向約 150m 先には平安時代の天神平遺跡が存在している。また、約 100m 先の南には県指定史跡の加牟那塚古墳が立地しており、西方約 150m 先には榎田遺跡も存在している。このような状況から住宅課と学術文化財課との協議により、建物基礎撤去を実施する際に立会調査を実施することとなった。

1 月 25 日は、11 号棟の基礎撤去の脇で実施し、深さ約 155㎝までの掘削で断面観察を行ったところ、現地表から 35㎝までは撹乱層、2 層目は 30㎝の厚さで青灰色粘土層が、3 層目は 13㎝の厚さで暗褐色粘土層が、4 層目は約 30㎝の厚さで青灰暗褐色粘土層が、5 層目は緑灰色粘土層で礫を含んでいた。1 月 26 日は、11 号棟の南東方向にある 20 号棟の基礎撤去の脇で実施し、深さ約 135㎝までの掘削で断面観察を実施した。1 層は建物による 30㎝の撹乱層、2 層目は 30㎝の厚さで茶褐色砂質粘土層、3 層目は 10㎝の暗褐色砂質粘土層が堆積し、4 層目は 32㎝の堆積で明茶褐色粘土層が、5 層目は灰白色粘土層で大型の礫を含んだ層が確認された。2 月 15 日は、旧建物の間で実施した。11 号棟南付近では、168㎝まで掘削したところ、50㎝まで撹乱されており、2 層目の青灰色粘土層が 26㎝の厚さで堆積し、3 層目は 46㎝で緑灰色粘土層であった。また、11 号棟のほぼ南の 22 と 21 号棟の間では、75㎝までは撹乱層、2 層目は 38㎝で暗褐色砂質粘土層、3 層目は 7㎝で茶褐色粘土層、4 層目は 20㎝で青灰砂質粘土層、5 層目は 8㎝で砂層、6 層目は 30㎝で暗灰黒褐色砂質粘土層、7 層目は砂層であった。

調査の結果、周囲に川が流れている関係上、氾濫などもあり砂や粘土が堆積したものと判断され、集落を営める場所でもなく、畦などの遺構や遺物は確認されなかったことから遺跡は存在しないものと思われる。

第 1 図　県営住宅湯村団地建替事業位置図

左）掘削地点



中央）土層堆積状況

右）掘削地点

14　都留バイパス建設事業　立会《玉川金山遺跡》

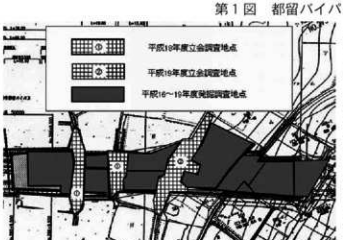
所在地	都留市玉川字上ノ原 200-1 外	調査期間	平成 19 年 1 月 30・31 日、2 月 7 日、11 月 26 ～ 28 日、12 月 7・10 日
担当者	網倉邦生	調査面積	約 102.8㎡

調査経緯及び事業内容と結果

都留バイパスは都留市十日市場から都留市田野倉に至る 2 車線バイパスとして計画されており、調査が実施された玉川字上ノ原はその第 2 トンネル地点西南側に位置する。平成 18 年度の玉川金山遺跡発掘調査事前協議において、国土交通省甲府河川国道事務所より道路建設工事に先立ち、道路を横断する水路を建設したいとの申し出があった。このため、平成 18・19 年度に立会調査を行うこととなった。

平成 19 年 1 月 30 日に仮設水路の設置を行ったが、掘削深度が浅いため、第Ⅰ面の構成土壌は検出されなかった。1 月 31 日に集水桝設置地点の掘削を行った。この結果、第Ⅱ・Ⅲ面の構成土壌に対比可能な土層は検出されたものの、遺構・遺物は出土しなかった。2 月 7 日に埋設水路造成に伴う掘削を行った。この結果、地表下 140㎝の位置より焼土を伴う土坑が 2 基、集水桝の間で焼土を伴う土坑が 1 基、確認された。これらの土坑は明茶褐色土層より確認されているため、縄文時代早期の遺構だと判断できる。土坑に係わる平面図・土層堆積状況図・位置図・写真等の記録保存措置をとった後に立会調査を終了した。11 月 26 ～ 28 日、12 月 7・10 日に埋設水路造成に伴う掘削を行った。この結果、第Ⅰ面構成土壌は検出されたものの、遺構・遺物は確認されなかった。

第 1 図　都留バイパス建設事業位置図



第 2 図　立会調査地位置図点

仮設水路造成状況

土層断面

15　釜無川流域下水道建設事業　立会（堀切遺跡）

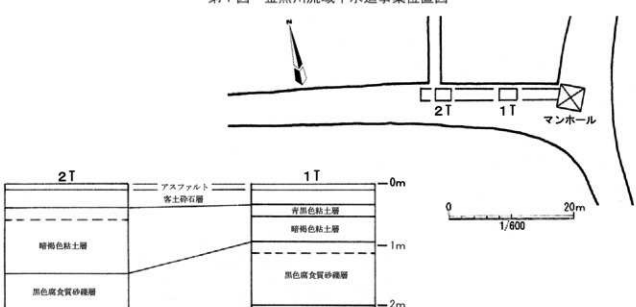
所在地	韮崎市龍岡町下條南割地内	調査期間	平成 19 年 2 月 15 日
担当者	坂本美夫	調査面積	6㎡

調査経緯及び事業内容と結果

立会調査地点は、武田信玄が治水のため御勅使川流路を付け替えるため堀抜いたとされる「堀切と呼ばれる場所に近接の位置にある（『甲斐国志』）。既に、南岸の南アルプス市野牛島地内と、北岸で今回と同地内の韮崎市龍岡町下條南割地内の２箇所において立会調査が実施されている。今回は、前回平成 18 年 8 月 22 日に実施した韮崎市龍岡町下條南割地点のマンホールから西北方に延びる既存の道路下に敷設する下水道管の立会を学術文化財課より依頼を受けて実施したものである。

調査は、敷設溝の幅 1.5m で長さ２m の掘削枡２箇所を２m まで重機により掘削し、平面及び断面において遺構や遺物の有無の確認を行った。路面より 40㎝前後まではアスファルト、路盤砕石層で、以下、青黒色粘土層、暗褐色粘土層、黒色腐植質砂礫層（土層図参照）となる。この間に、遺物や遺構の存在が確認されなかったことから、遺跡の存在はないものと思われる。

第１図　釜無川流域下水道事業位置図



第２図掘削溝位置・土層模式図

16　酪農試験場内側溝設置及び簡易舗装事業　立会《酒呑場遺跡》

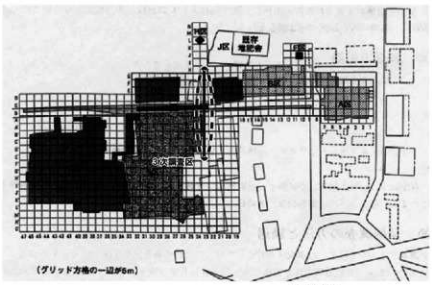
所在地	北杜市長坂町長坂上条 621-2	調査期間	平成 19 年 2 月 21 日、28 日
担当者	山本茂樹	調査面積	8.4㎡

調査経緯及び事業内容と結果

立会調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「酒呑場遺跡」内であることから、平成 18 年 12 月 28 日現地にて調査方法などの打ち合わせを行った。また、掘削工事は幅が 66㎝と狭く、掘削深度は 66㎝であることから、調査は工事立会で実施することとなった。2 月 21 日、道路部分の掘削では、既に水道管、電線、下水道管が埋設されている関係で、遺構や遺物は確認されなかった。次に北側部分で、長さ 6 m、幅 66㎝、深さ 65㎝を掘削したところ、縄文時代中期後半の土器片と黒曜石片が検出されたが、遺構は確認されなかった。工事の掘削深度は 56㎝であることから、遺構確認面まで掘削は及ばないものと思われる。2 月 28 日、前回の続きの立会調査を実施したが、現地表から 60㎝まで撹乱を受け、一部自然堆積層が確認されたが、遺構は確認されなかった。また　遺物は、縄文時代の土器片が遺物包含層（自然堆積層）と撹乱層から発見された。

結果として、遺構面までの掘削は行われず、遺物包含層までであることから、写真や堆積土層を記録し、工事を継続しても遺構に影響を及ぼすものでないことを報告した。

第 1 図　酪農試験場内側溝設置及び簡易舗装事業位置図



第 2 図　立会地点

17　県営住宅湯村団地建替事業　立会《甲府市地内》

所在地	甲府市湯村三丁目地内	調査期間	平成 19 年 4 月 4 日
担当者	野代恵子	調査面積	150㎡

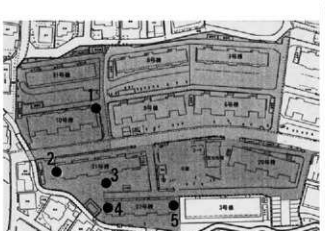
調査経緯及び事業内容と結果

立会調査地点は、天神平遺跡、県指定史跡 加牟那塚古墳、榎田遺跡などに隣接する地域であり、団地南東方向にある湯村山には古墳も分布する。このような状況から住宅課と学術文化財課との協議により、建物基礎撤去の際に立会調査を実施することとなった。

湯村団地は昭和 40 年～ 42 年に建設されており、団地の周辺には湯川が流れている。今回立会調査を行なったのは①10 号棟北東側、②21 号棟西側、③21 号棟南側、④22 号棟西側、⑤22 号棟東側の 5 地点についてである。基本層序としては上から、攪乱層、暗褐色粘土層、青灰色粘質土混砂層、黒褐色砂礫層、灰褐色砂礫層となっており、地点によってそれぞれの層の厚さが異なったり、その質に若干の変化が見られた。

調査の結果、周辺に川が流れている関係上、氾濫などにより砂や粘土が堆積したものと判断され、遺構や遺物も確認されなかったため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

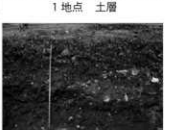
第 1 図　湯村団地建替事業位置図



第 2 図　立会地点

1 地点　土層

1 地点　全景



2 地点　土層

5 地点　土層

18　舞鶴陸橋（主要地方道甲府・山梨線）北側歩道拡幅改良事業　立会《甲府城跡》

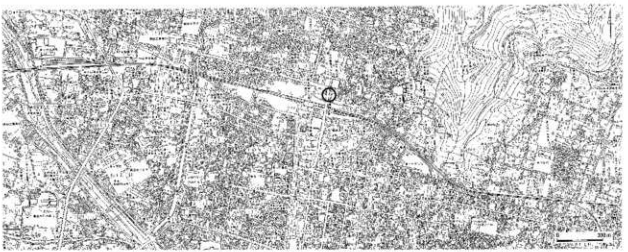
所在地	甲府市北口二丁目地内	調査期間	平成19年5月8日～11日
担当者	野代幸和、上原健弥	調査面積	約32㎡

調査経緯及び事業内容と結果

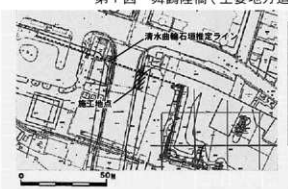
本事業は、既存の歩道の拡幅に伴い、県中北建設事務所と学術文化財課、甲府市教育委員会との協議結果に基づき、同課から立会調査の依頼を受け、甲府市教育委員会と当センターとで実施した。協議内容については、既存の道路地ならびに拡幅地盤の掘削を伴うことを確認した。甲府市教育委員会による隣地部分の調査データより予定している掘削深度では遺構面ないし包含層には達しないことが判明したが、本地点が甲府城跡内の清水曲輪北側石垣付近に位置するため、立会調査で対応することを確認した。

5月8日、既存のガードレール、間知積石垣等の撤去作業について立会を実施、道路敷の盛土内であるため地下遺構への影響は認められなかった。5月9日、拡幅地盤の掘削を実施。コンクリートの基礎を確認。旧地盤面を確認した。5月10日、清水曲輪北側石垣推定地付近より、石垣の裏栗石と考えられるものの集中地点が認められたが、枕木片やスレート等のゴミが混在していた。そのため撹乱層と判断し、遺構の保全上問題ないものと考えられたため写真撮影・記録を行った後、工事継続を許可した。5月11日、砂利盛土層下より旧地表面の表土（灰褐色シルト層）を確認。表土内からはレンガ、枕木、石炭等舞鶴陸橋敷設以前の旧国鉄用地に関係するものが混在していた。隣接地の発掘調査でも機関車用の貯炭施設に係るものが発見されていることから、同種のものと考えられる。また歩道橋階段付近から清水曲輪に係る石垣裏栗石と考えられるものが集中して認められたが、廃棄が混入していることから後世の撹乱を受けているものと判断された。石垣の存在は把握できなかった。

今後反対側の拡幅工事も予定されているため、同種のものが確認されれば清水曲輪の範囲確定に大きく貢献するものと思われる。現況の掘削深度では地下遺構に影響が及ぶ状況は認められなかった。



第1図　舞鶴陸橋（主要地方道甲府・山梨線）北側歩道拡幅改良事業位置図



調査状況

掘削状況

第2図　舞鶴陸橋（主要地方道甲府・山梨線）
北側歩道拡幅改良事業位置図

19　山梨県議員会館解体事業　立会　《甲府城跡》

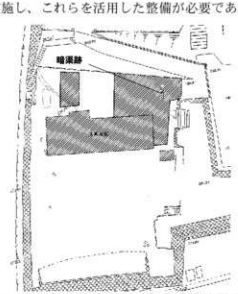
所在地	甲府市丸の内一丁目地内	調査期間	平成19年6月25日～7月26日、8月21日
担当者	山本茂樹　野代幸和　上原健弥	調査面積	約440㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県指定史跡甲府城跡二の丸内にあった議員会館の解体撤去に伴い、県議会事務局、県営繕課、県中北建設事務所と県教育委員会学術文化財課との協議結果に基づき、同課から立会調査の依頼を受け当センターで実施した。協議内容については、既存の建物および地下埋設物の除去に伴い掘削が必要であることを確認した。本地点は過去の調査データが皆無であることから、事前に踏査等を行い状況把握に努めることにした。歴史的には甲府城跡二の丸に位置するため、基礎解体時に立会調査で対応することを確認した。

6月25日、現場作業員に対して文化財保護教育を実施。東門の撤去に係る基礎確認作業を実施したところ、約50㎝の深さまで掘削が及んでいることを確認し、隣接する石垣の根石と密着した状態が確認できた。そのため撤去は中止した。6月26日、水道管移設作業に伴う調査を行い、現地表下50㎝で地山の粘土質灰白色土層を確認。掘削中に岩石を保護した。崩落石垣部分では、一部工事に支障が予想される部分について、3石を移設保護した。7月23日、浄化槽の撤去工事のため対応した。盛土部分約70㎝分について、コンクリート壁の撤去を行なった。断面観察により盛土下から白色粘土を含む茶褐色土層の地山を確認。浄化槽最深部において黄褐色土層が確認できた。岩脈は見られなかった。7月25日、コンクリート土間撤去時に暗渠遺構が発見されたため範囲確認ならびに計測調査を実施した。上蓋石長約二尺一寸（63㎝）、厚さ約五寸（15㎝）、短径約七寸（21㎝）を測る。溝の深さは約七寸（21㎝）、幅も約七寸の正方形に近い。一部状況把握のために試し掘りを行なったところ、溝内から寛文年間以降の所産である軒平瓦が認められた。暗渠の範囲を確認したところ、北へはまだ伸びている状況が確認できたが、南側は石垣手前で断絶している状況が認められた。今回は確認作業のため、埋設保存で対応する措置をとったが、整備等を行なう際には発掘調査を実施し、これらを活用した整備が必要である。

第1図　山梨県議員会館解体事業位置図



第2図立会調査地点及び発見遺構位置図

石垣根石確認状況

崩落石垣石材保護状況

浄化槽撤去状況

暗渠跡確認状況

暗渠埋設保存状況

20　県庁構内西門の電柱設置事業　立会《甲府城跡》

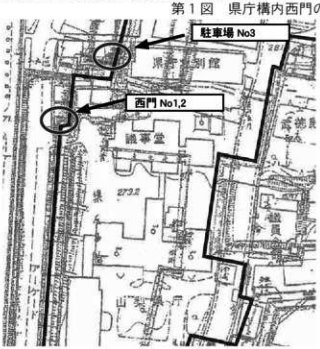
所在地	甲府市丸の内一丁目県庁内	調査期間	平成19年6月30日、7月7日
担当者	山本茂樹	調査面積	約2㎡

調査経緯及び事業内容と結果

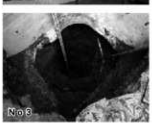
県庁構内西門に電柱設置を行うことについて、学術文化財課から埋蔵文化財センターに調査依頼があった。

電柱設置位置については、西門の北側（No1）と南側の２本（No2）、そして北別館西側の県警駐車場の１本（No3）である。掘削地点は、県指定史跡「甲府城跡」の内であったことから、立会調査を実施した。西門の南側では、掘削の直下で水道の止水弁が、そして、すぐ南では深さ約90㎝で土管が埋設されており、撹乱が著しかった。北側では、深さ約115㎝で石垣の上部が確認されたことから、石垣を除けた西側に電柱を設置した（第２図の黒線は、石垣の存在が想定される線）。３本目の場所は、北別館西側にある駐車場内のほぼ北西隅である。この場所は、平成15年８月に試掘調査が実施されており、堀の中であることが確認されている。機械により旧地盤まで掘削し、さらにその下を掘削したところ、水道管が既に埋設されていたことにより、７月７日に再度場所を変えて掘削を行ったが、遺構及び遺物は確認されなかった。

第１図　県庁構内西門の電柱設置事業位置図



第２図　立会地点



21　主要地方道甲府・山梨線（舞鶴通り）配水管敷設替・道路舗装事業　立会《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内一丁目地内	調査期間	平成19年7月6日～20日、9月1日
担当者	山本茂樹　(12日のみ)　野代幸和	調査面積	約710㎡

調査経緯及び事業内容と結果

本事業は、県指定史跡甲府城跡と県庁の間を通る主要地方道甲府・山梨線内に敷設されている既存水道管の敷設替に伴い、甲府市上下水道局、県中北建設事務所と学術文化財課、甲府市教育委員会との協議結果に基づき、同課から立会調査の依頼を受け、甲府市教育委員会と当センターとで実施した。協議内容については、既存の水道管敷設部分以外の道路敷部分の掘削を伴うことを確認した。甲府市教育委員会によるガス管敷設工事に伴う隣地部分の調査データでは遺構面ないし包含層には達しないことが判明し、掘削範囲が狭小であることから地下遺構への影響は少ないと判断されたが、本地点が甲府城跡楽屋曲輪の番所、追手門、堀に位置するため、立会調査で対応することを確認した。道路占有の関係から深夜22:00以降からの対応となった。

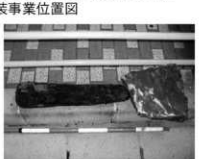
7月10～11日、県庁東別館南側駐車場付近において、道路敷より約1m下で地山を確認。駐車場の南端において、約40㎝下で地山を確認。県庁東門北側付近から枡形虎口北側の南石垣を確認した。栗石が2.50mの幅で認められ、大型の石材の混入もあった。根石と考えられるものは、約90㎝下より発見された。幅65㎝、奥行45㎝を測る巨大な石材である。状況から二石程度存在する可能性が考えられる。7月11～12日、県庁東門南側の追手門付近で礎石が二基発見された。第3図1はホゾ穴15×18㎝、水抜き溝8㎝を伴う。面取り部分46×39㎝、厚さ43㎝、露出部分18㎝、推定材径28×36㎝を測る。帰属する時代ならびに原位置を留めているか不明である。周囲より敷石と考えられる板状の石（第3図2・3）が5点出土、二寸幅の矢穴痕から寛文～宝永年間の江戸期の所産と考えられる。7月13日～14日、スクランブル交差点付近において、堀に対応する石垣ならび栗石、護岸の木杭（第3図5）が発見された。9月1日、既存舗装を除去時に立会い、遺構は認められなかった。

狭小な範囲であったが、概ね想定された地点にそれぞれの遺構が予想以上に確認でき記録保存できたことは、当該地域における今後の文化財保護のデータ蓄積の中で大きな糧となるであろう。

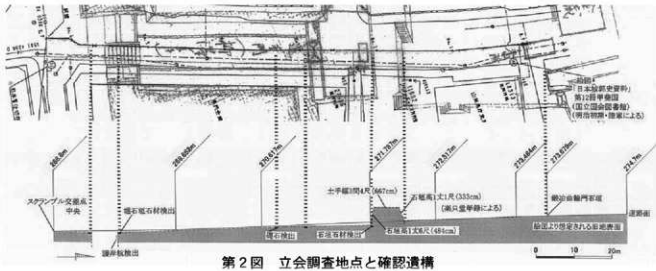
第1図　主要地方道甲府・山梨線配水管敷設替道路舗装事業位置図

立会調査状況

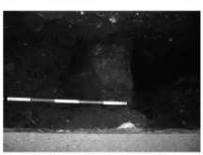
追手門付近出土礎石



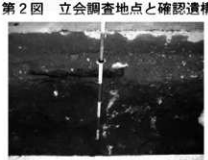
堀・太鼓橋付近出土木杭・石垣石材



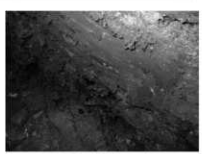
第２図　立会調査地点と確認遺構



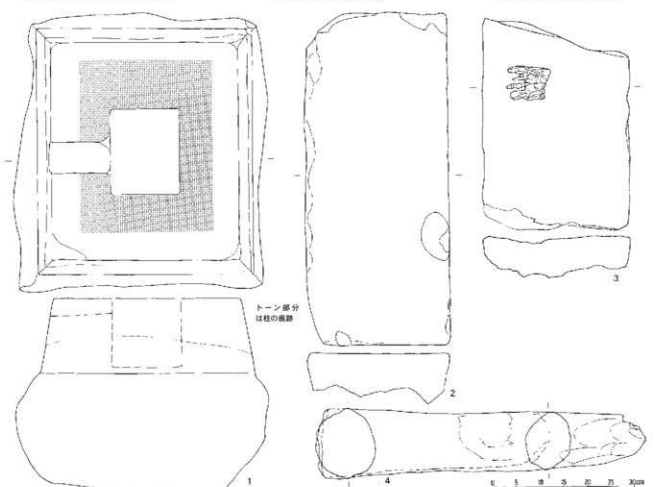
追手枡型南側石垣石検出状況



堀北側石垣石検出状況



堀覆土内炭化材確認状況



第３図　出土遺物（1 礎石、2・3 敷石用板状石、4 護岸用木杭）

22　御勅使川福祉公園（５番堤）整備事業　立会《５番堤》

所在地	南アルプス市有野地先（５番堤）	調査期間	平成 19 年７月９日
担当者	野代恵子	調査面積	約 10㎡

調査経緯及び事業内容と結果

立会調査地点は、御勅使川に沿って５番堤が延びる箇所であり、今回の立会調査は治水歴史広場東側において新設歩道が５番堤を横切る箇所について行なった。

工事は既存通路をそのまま使う形で、そこに縁石を敷設するため、現地表下 15㎝程度の掘削を行なった。現地にはすでに５番堤を切り崩して通路がつくられているが、この通路と５番堤部分が接する部分を２ヶ所それぞれ幅 50㎝で掘削した。その結果、堤防の上部は既存通路によってすでに削り取られているものの、それより下については石積みや堤体がほぼ残っていることが確認された。これは堤防の川裏側（南側）にある堀状の窪みを横断するように盛土をし、堤防の切り崩しを少なくして既存通路がつくられていた為である。堤体の土層については、基本的に小礫と砂を主体としており、上部では拳大の礫、下部ではそれより小さい礫が含まれている状況が見られた。

調査の結果、工事箇所においては石積みおよび堤体が残っていることが確認された。しかしながら工事に伴う掘削は 15㎝程度であり、それよりも下に遺存する堤防には破壊が及ばないことから、工事を進めても差し支えない旨を報告した。しかし今後５番堤周辺の開発を行なう際には注意が必要である。

第１図　御勅使川福祉公園（５番堤）整備事業位置図

第２図　立会地点

堤防横断部 西側土層

堤防横断部 東側掘削状況

堤防横断部 全体

工事箇所周辺の堤防の状況

23　県営住宅千塚北団地解体事業　立会（甲府市地内）

所在地	甲府市湯村一丁目7番23号外	調査期間	平成19年10月18日・11月5日、12日
担当者	坂本美夫・猪股一弘	調査面積	45㎡

調査経緯及び事業内容と結果

立会調査地点は荒川左岸にある。榎木田遺跡、音羽遺跡、緑ヶ丘遺跡、塩部遺跡などが周囲を取り囲んでいる。このため県営団地の解体に先だって遺跡の有無の確認を目的として実施したものである。

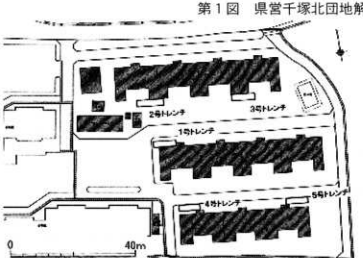
北より北棟、中棟、南棟とし、調査順序は解体工程に従い中棟に1ヶ所、北棟に2ヶ所、南棟に2か所の合計5ヶ所を立会用トレンチとして設定した（トレンチ配置図参照）。

土層は堆積の多少はあるものの、基本的には表面から褐色土層、茶褐色土層、黒褐色土層（粘質土）、砂・礫の互層である。黒色土層は粘質が強いもので地表から40～90㎝下から、砂・礫層の互層は地表から70～110㎝下にみられ、地表下2ｍ前後で湧水が確認された。

黒色土層からみると、事業地内で30㎝前後での小さな起伏はみられるものの、土層はおおよそ水平堆積をみせている。そしてこれらの土層の中に、遺構が切り込まれた状況は全くみられず、かつ、5号トレンチの砂・礫の互層中から杭状の木材が1点確認されたのみで、陶器、土器類などの遺物については全く確認できなかった。

遺構、遺物が確認されなかったことから、遺跡の存在はないものと考えられ、工事するも支障ないものと判断された。

第1図　県営千塚北団地解体事業位置図



第2図　トレンチ配置図

5号トレンチ土層堆積状況

24　兄川県単河川改良事業　立会（山梨市地内）

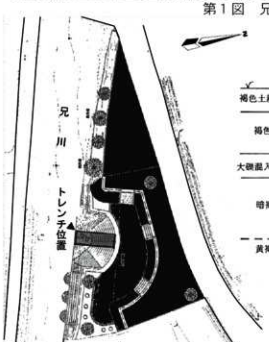
所在地	山梨市江曽原 598 番地	調査期間	平成 19 年 11 月 9 日
担当者	坂本美夫・猪股一弘	調査面積	14㎡

調査経緯及び事業内容と結果

立会調査地点は、昭和 36 年に河床よりナウマン象の化石骨が出土し、平成 6 年の河川護岸工事に伴う発掘調査においてもナウマン象の化石骨が発見された地点（同市南地内）より、約 1 ㎞ほど上流に位置する。今回の調査は、同河川沿いに建設される親水公園と護岸工事の立会を学術文化財課より依頼を受けて実施したものである。

調査は、事業地が狭小な面積のため河川に上り下りする階段建設部分に幅 2.6m、長さ 5.7m の掘削枡を設定、2.5m まで重機により掘削し、平面及び断面において遺構や遺物の有無の確認を行った。土層は耕作土以下は河川の扇状地を形成した砂、礫などを含む堆積土で褐色土、大礫混入褐色土、暗褐色砂礫層、黄褐色砂礫層であった（土層模式図参照）。この間に、化石骨、遺物、遺構の存在が確認されなかったことから、遺跡の存在等はないものと思われる。

第 1 図　兄川県単河川改良事業位置図



第 2 図　掘削溝位置・土層模式図

トレンチ土層堆積状況

25　県庁構内水道修理事業　立会《甲府城跡》

所在地	甲府市丸の内1－6－1	調査期間	平成19年12月4日
担当者	今福利恵（学術文化財課）	調査面積	0.5㎡

調査経緯及び事業内容と結果

立会調査地点は、県庁構内で、西門から入った警察車庫前である。歴史的には甲府城内西側の柳門がかかる石垣付近となる。工事は、警察車庫前に埋設されている水道の破損修理であり、現況はすでに掘削がなされたところと判断できる。軽微なもので県庁構内であることから県教育庁学術文化財課で対応することとした。工事は、既設貯水槽をそのまま埋め戻し、水道管を交換再接続するもので、掘削範囲はおよそ100cm×50cm、深さ50cm程であった。掘削状況は、過去の水道工事による埋め土部分のみの掘削であり、新規な掘削はなかった。よって埋蔵文化財には影響ないものと判断し、終了した。

第１図　県庁構内水道修理事業位置図

第２図　立会地点

掘削状況

掘削状況

26　峡南高等技術専門校下水道接続事業　立会（増穂町地内）

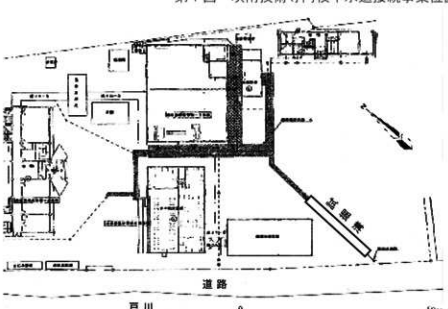
所在地	南巨摩郡増穂町 3492 番地	調査期間	平成 19 年 12 月 25 日
担当者	坂本美夫・依田幸浩	調査面積	17㎡

調査経緯及び事業内容と結果

立会調査地点は、戸川左岸上にある。このため主に堤防遺構の有無の確認を目的とした立会を学術文化財課より依頼を受けて実施したものである。

調査は、戸川左岸に東西に走る道路より校内に接続する下水管の敷設ラインを立会用トレンチ（長さ 21m、幅 0.6 ～ 1m）として掘削した。その結果、アスファルト舗装（ 5㎝）の下は、砕石の展圧層（15㎝）、褐色砂礫土層（ 5㎝）、砂礫層（小礫混入、35㎝）、砂礫層（中礫混入、90㎝）と続くが、深さは敷設溝の掘削深度 1.5m までとした。土層は、基本的には砂礫層の互層で、立面の壁面では中央付近のアスファルト下に大形のコンクリート片、北端最下層あたりに送風用蛇腹ホースが埋められていた部分以外では水平堆積をみせ、また、最下層の平面においても堤防遺構等の存在はみられず、遺物についても全く確認できなかった。このことから、遺跡の存在は無いものと思われ、工事を行うも支障ないものと考える。

第１図　峡南技術専門校下水道接続事業位置図



試掘溝

第２図　掘削溝位置図

27　中部横断自動車道建設事業　踏査《市川三郷町地内から身延・南部町地内》

所在地	市川三郷町・身延町・南部町地内	調査期間	平成19年2月5日～9日
担当者	山本茂樹	調査面積	路線約28km

調査経緯及び事業内容と結果

中部横断自動車道新直轄方式導入以後については、以下のとおりの経緯である。平成１８年１１月２７日に国土交通省、中日本高速道路株式会社、県道路整備課、学術文化財課を交え施行エリア全般を対象とした現地踏査を実施し、その結果を踏まえ試掘対象箇所を決定した上で再度協議を実施することとした。同年１２月１３日、国土交通省、学術文化財課、埋蔵文化財センターによる協議で、現地踏査に係る事前協議を実施した。平成１９年１月１０日～１２日までの３日間、甲府河川国道事務所中部横断道路推進室、学術文化財課、埋蔵文化財センターによる計画路線の場所確認を行い、同年２月５日～９日までの５日間を埋蔵文化財センターで踏査を実施した。その結果については、以下の表のとおりである。

（試掘調査を必要とする箇所○：２６箇所　発掘調査を必要とする箇所●：６箇所　合計：３２箇所）

町　村　名	住　所・場　所　な　ど	周知の遺跡	試掘調査○ 発掘調査●	遺　跡　の　時　代
市川三郷町地内	宮原地内		○	
	鴨狩地内		○	
身延町地内	下田原地内		○	
	一色地内		○	
	一色地内		○	
	波高島地内		○	
	上八木沢地内		○	
	上八木沢地内（松葉沢川）	上の山遺跡	○	近接
	下八木沢地内（不動沢川）		○	
	帯金地内	帯金遺跡	○	中～近世　近接
	帯金地内（入之沢川）	東林庵遺跡	○	寺院跡　近接
	泥の沢地内	泥の沢Ａ遺跡	○	中～近世　近接
	御持林・桜井地内	塩之沢遺跡	○	縄文　近接
	角打地内		○	
	和田地内		○	
	和田地内		○	
	和田石倉沢地内		○	
	石倉沢・樋之上地内		○	
	樋之上～大島地内（渡々沢川）		○	
	大島地内（長戸川）		○	
南部町地内	中野・本郷地内	清水原遺跡	●	中～近世
	本郷地内	本郷原間遺跡	●	縄文・古墳・平安
	本郷地内	大神遺跡	●	縄文
	坂本地内	坂本遺跡	●	中～近世
	中野地内		○	
	塩沢地内		○	

町　村　名	住　所・場　所　な　ど	周知の遺跡	試掘調査○ 発掘調査●	遺　跡　の　時　代
南部町地内	楮根地内		○	
	楮根地内	神之木遺跡	●	縄文
	楮根地内		○	
	楮根地内		○	
	福士真篠地内	真篠城跡	●	中～近世
	福士真篠地内	真篠城跡	○	真篠城跡の付随施設

第１図　中部横断自動車道建設事業位置図

市川三郷町　宮原地内

鴨狩地内

塩之沢遺跡周辺

上ノ木地内

下八尻地内

報 告 書 抄 録

ふ り が な	やまなしけんないぶんぷちょうさほうこくしょ
書　　名	山梨県内分布調査報告書（平成 19 年）
シ リ ー ズ	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 257 集
発 行 者	山梨県教育委員会
編 集 者 名	保坂和博
編 集 機 関	山梨県埋蔵文化財センター
所 在 地	山梨県甲府市下曽根町 923
連 絡 先	TEL　055-266-3016　Fax　055-266-3882
発 行 日	平成 20 年（2008）3 月 25 日

事　　業　　名	所　　在　　地
1　塩山バイパス建設事業	甲州市塩山赤尾 671 外地内
2　防災ステーション建設事業	南巨摩郡増穂町青柳地内
3　国道 52 号線改良事業	甲府市上石田 2 丁目、飯田 5 丁目地内
4　都留バイパス建設事業	都留市井倉字美通 335 外地内
5　法務省甲府地方裁判所所長宿舎解体事業	甲府市愛宕町 85-2 地内
6　県立甲府工業高等学校室内トレーニングルーム増設事業	甲府市塩部 1-2 地内
7　山梨リニア実験線（境川工区）建設事業	笛吹市境川町小山・前間田地内
8　山梨リニア実験線（八代・御坂工区）建設事業	笛吹市八代町・御坂町地内
9　中部横断自動車道建設事業	南巨摩郡増穂町青柳字整理地内
10　企業局局長公舎解体撤去事業	甲府市元紺屋町 110-1 地内
11　総合教育センター他情報ハイウェイ接続事業	甲府市塩部 3-2 付近
12　長坂郵便局（日野春郵便局移転）建設事業	北杜市長坂町上条字大林地内
13　県営住宅湯村団地建替建設事業	甲府市湯村 3 丁目地内
14　都留バイパス建設事業	都留市玉川字上ノ原 200-1 外地内
15　釜無川流域下水道建設事業	韮崎市龍岡町下条南割地内
16　酪農試験場内餌溝設置及び簡易舗装事業	北杜市長坂町長坂上条 621-2 地内
17　県営住宅湯村団地建替建設事業	甲府市湯村 3 丁目地内
18　舞鶴陸橋（主要地方道甲府・山梨線）北側歩道拡幅改良事業	甲府市北口 2 丁目地内
19　山梨県議員会館解体事業	甲府市丸の内 1 丁目地内
20　県庁構内西門の電柱設置事業	甲府市丸の内 1 丁目地内
21　主要地方道甲府・山梨線（舞鶴通り）配水管敷設替・道路舗装事業	甲府市丸の内 1 丁目地内
22　御勅使川福祉公園（5 番堤）整備事業	南アルプス市有野地内
23　県営住宅千塚北団地解体事業	甲府市湯村 1-7-23 外地内
24　足川河川改良事業	山梨市江曽原 598 地内
25　県庁構内水道修理事業	甲府市丸の内 1 丁目地内
26　峡南高等技術専門校下水道接続事業	南巨摩郡増穂町青柳町 3492 地内
27　中部御横断自動車道建設事業	市川三郷町、身延町、南部町地内

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 257 集

山梨県内分布調査報告書
（平成 19 年）

印刷日　2008（平成 20）年 3 月 17 日
発行日　2008（平成 20）年 3 月 25 日
編集　山梨県埋蔵文化財センター
〒 400 － 1508
山梨県甲府市下曽根町 923
Ｔｅｌ　055-266-3016
Ｆａｘ　055-266-3882
発 行　山梨県教育委員会
印刷所　株式会社 峡南堂印刷所